

港区の歴史ふまえた論議を！

「区画整理記念事業」内容の検討始まる

戦後の焼け野原から水害に強い港区の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」（一九四八―一九五〇）の足跡を記念施設として残そうという計画の骨子が三月末までに確定。弁天町駅前の土地四千㎡と資金四六億円を使い、交流会館と拠点病院が一体で整備されることになりました。このうち交流会館の事業内容などを区役所と共に検討するワーキングメンバーの募集が六月中旬に締め切られ、最終的に二十三名（公募区民十九名、区長推薦委員四名）が決定。検討が始まります。来年三月末までに四回程度の会合が予定されていますが、港区の歴史を踏まえ、これまでの区民論議で出された「歴史展示スペースを十分に」などの声を生かした論議が期待されます。

「歴史展示を充分に」などの声生かして

まず、確定された「区画整理記念事業」の計画

一度、確認してみましよう。

骨子を、港区役所のホームページなどからもう

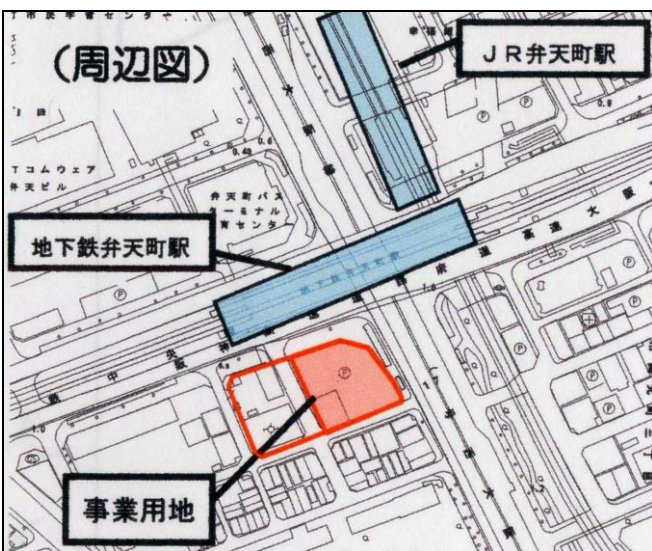
◆「事業計画骨子(案)」提示までの経過

・港区では一九四八年から九年まで、戦災復興と高潮対策を兼ねて、区域の約九割（六九

議云」で承認された。

○**ハシ**を約「**ハシ**、**盛土・高上げ**する」という「**港**地区復興土地区画整理事業」が実施された。

・この事業が終わった一九九一年「将来、地域に役立つ記念施設を造るために」と未指定地（本来なら事業が終わる時に地権者への引き渡し＝指定Ⅱが行わなければならないが、引き渡されずに残された土地）を大阪市の土地とするのが、地権者代表である土地区画整理審



→ 図1 区画整理記念事業の周辺図

・その後、それら未指定地のうち弁天町駅前の約二〇八五㎡（図1、2参照）以外は全て売られ、その収入は記念施設の建設費として大阪市の基金に積み立てられてきた（約二十七億円）。

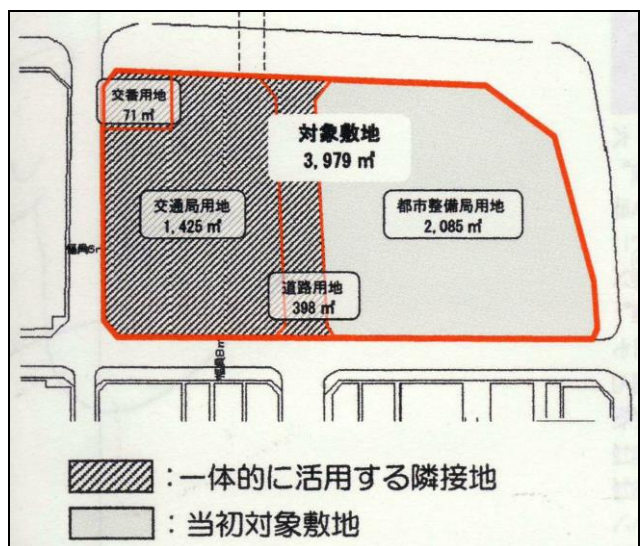
・大阪市はその土地と金を使って「どんな施設を造ったらよいか、元地権者代表から成る「港地区土地区画整理協議会」（以下「協議会」）の声も聴きながら、「コンペを実施するなど色々と検討を重ねてきたが、事業化には至らなかった。

・ところが昨年夏、大阪みなと中央病院（築港一丁目、一九五〇年築、旧「船員保険病院」）から「建物の老朽化が進み建て替えるが必要になった。病院を運営しながら建て替えることはできない。弁天町駅前の記念事業用地に移りたいが、できない場合は市外への転出も考えないといけない」という相談が港区役所にあった。

・これを受けて港区役所は、築港住民への影響も考えて水面下で「協議会」にも伏せて「話し合いを重ね、十一月には同病院からの文書申し入れを受けて合意に至った（正式合意は二月）。

・これにより、最初に考えられていた用地の

→ 図2 区画整理記念事業の敷地図



西隣にある交通局用地も含めて同病院と一体で開発し、記念施設だけでなく、地域医療・災害時医療の拠点も造ることになった。

・また病院跡地は、子育て層の流出や高齢化が激しい築港地域の活性化に役立つよう、家族向けマンションなどの住宅用地として一般向けに売ってもらうことになった。

◆ 確定された「事業計画書」の内容

・建設予定地は、最初に考えられていた都市整備局用地約二〇八五㎡に交通局用地と道路を加えた約四〇〇〇㎡となった（図2参照）。

・そのため交通局用地内の変電所と隣接の交番はそれぞれ近くへ移され、道路は廃止される（歩行者の通行はできる）（図2、図3参照）。

・そして確保された敷地全体の六割超（約二五〇〇㎡）を大阪みなと中央病院が九〜十

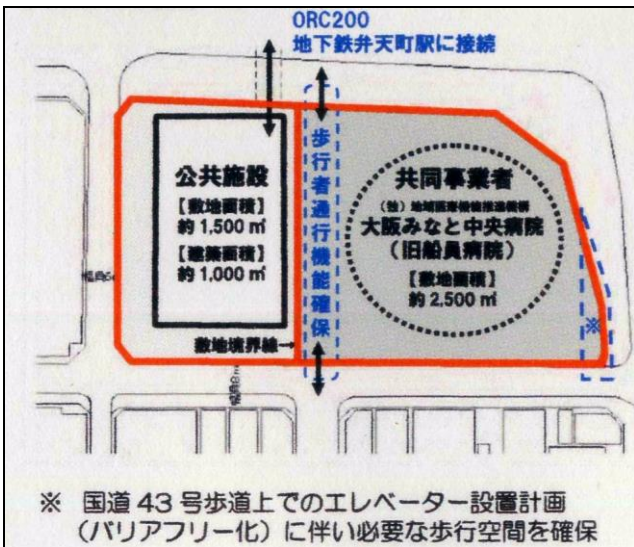


図3 区画整理記念事業の配置図

億円（推定）で買い取り、「総合病院・救急病院・災害時拠点病院」（以下「拠点病院」として移転して）（建物床面積は二四〇〇〇〜二八〇〇〇㎡となる）（図3参照）。

・これによつて総事業費は、これまでの積立金約二十七億円で、同病院に土地を売って得られた金を加え、約四十八億円となる。

・その資金を使つて本来の目的施設である「区画整理記念・交流会館（仮称）」（以下「交流会館」）が敷地の四割弱（約二五〇〇㎡）に建設される（建物床面積は五〇〇〇〜六〇〇〇㎡となる）（図3参照）。

・交流会館には「区画整理記念ホール（仮称）」（以下「文化ホール」）が設置される（図4参照）。

・また交流会館には「港図書館」が面積を大幅に二倍超に増やして移され、その中に区画整理の歴史を学ぶスペースなどが設けられる（図4参照）。

・また交流会館には「港区民センター」「港区老人福祉センター」「港区子ども子育てプラザ」の機能をまとめた持つ「世代間交流・子育て支援スペース」が造られ、区役所が一体的に運営すると

「区画整理記念事業の敷地（磯路一・七）。右手前の空き地に大阪みなと中央病院を移転し、左奥の二つの建物（地下鉄弁天町駅舎と変電所）撤去跡に交流会館が建てられる



共に、それら三施設は廃止される（図4参照）。

・また交流会館にはエントランス（玄関）ホールや小会議室なども造られ、全体として港区の防災拠点ともなる（図4参照）。

区民本位の施設へ

根本検証や見直しも含めた論議を

以上の経過・内容・スケジュールを踏まえて今年度中にワーキングメンバーと区役所が交流会館の事業内容などを検討・決定する訳ですが、その際、これまでの区民議論などが出された次の内容を論点に議論されることが期待されます。これらには過ぎたこと、あるいはほぼ決まったことも含まれますが、今後のため、また施設の中身を少しでも区民本位に改善するため、蟠りのない検証や見直しが求められます。

歴史 四十数年に亘る区画整理事業の経過と成果を再度整理すると共に、その否定的側面とされる諸問題（自動車社会のために水運や景観を犠牲にした運河の埋め立て、防災のために自然との連続性や景観を犠牲にした荒無川・安治川の護岸構築、土地の交換・分合や建物移転の過程で生じた利害調整の不公平など）も検証して功罪を明らかにし、記念事業（特に歴史展示

・敷地の東側に拠点病院を、西側に交流会館を配置したのは、交流会館と地下鉄駅との接続の便を考え、また同病院のセキュリティ（安全面）を考えてのことである（図3参照）

・事業実施に伴う築港地域の医療不安（総合病院がなくなる）を踏まえ、大阪みなと中央病院や港区医師会に働きかけるなど、病院移転後の受診機会の確保に努める。

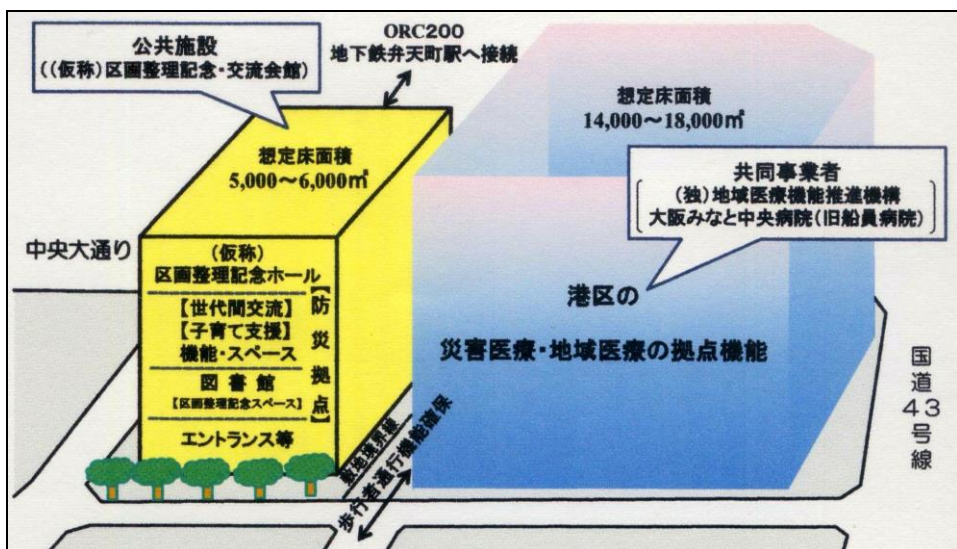
◆事業実施へのスケジュール

・二〇一五年度 ①交流会館の事業内容（主にソフト面）を区役所と区民（記念事業検討ワーキングメンバー十三人）が一緒に考える②現地の更地化工事（埋設管移設など）を始める（時期変更の可能性も）③病院の設計を始める④新変電所の設計を始める

・二〇一六年度 ①交流会館の建設に向けて色々な調整（主にハード面）をする②病院の建設工事を始める③新変電所の建設工事を始める

・二〇一九年度 ①交流会館の建設工事を始める②病院がオープンする③現変電所を撤去して更地にする

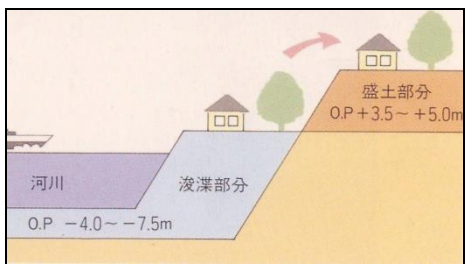
・二〇二二年度 交流会館がオープンする



→ 図4 交流会館の施設整備イメージ（あくまでイメージであり、建物の形態などは今後のワーキングや関係先との協議を経て決定）

に反映させるべきではないか。

内容 全体として港区の歴史的事業を後世に伝えるという主目的に合致した事業内容になっているか。世代間交流・子育て支援・防災拠点・地域医療拠点・災害時医療拠点・地域包括ケアシステム・文化ホール・区史展示・図書館・会議室など、計画案に示された機能の中に、無駄なもの



→全面二メートルの盛土が区の大半で実施され、世界史上でも画期的とされる「港地区復興土地区画整理事業」。写真上はサンドポンプから噴き出される土砂（一九五四年頃）、下図は全面盛土方式のイメージ。港区役所新庁舎竣工記念誌（一九九八年発行）から

の、また不足なものはないか。区画整理の歴史を後世に伝えるための展示スペースは図書館に併設で良いか、独自に設けるのが良いか。病院と記念会館の面積や配置の割り振りは適切か。

費用 大阪みなと中央病院が買い取る敷地（二〇八五㎡）の代金（十億円）は適切か。事業費四十八億円に市の補助はないのか、建設費と運営のバランスは適切か。運営の中で得られる収益（使用料、入場料など）をどう扱うべきか。

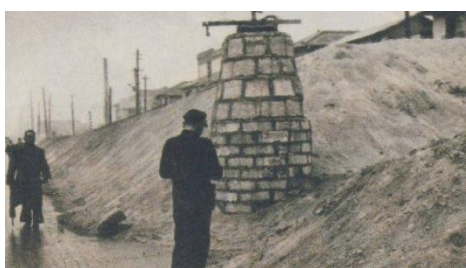
運営 病院は大阪みなと中央病院が運営するとしても、記念会館を区役所が運営するのは適切か、他の方法（区民団体など）による運営、あるいは分割運営は考えられないか。

交通 交流会館への重要なアクセスポイントとなる弁天駅前交差点のバリアフリー化（地下道へのエレベーター設置など）の完了時期（二〇一七～八年度）は適切か。図書館、区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザなどの機能が弁天駅前へ移ることで築港など区西部の住民からますます遠ざかる問題をどう考えるか、分室設置などの対応が必要ではないか。

関連施設 大阪みなと中央病院が築港から転

←「港地区復興土地区画整理事業」の工事風景。

写真上は八幡屋付近の市電軌道の嵩上げの様子（一九五七年頃）。山本安孝氏提供。同下は盛土後の路面高に合わせた下水道マンホールの築造風景。港区役所新庁舎竣工記念誌（一九九八年発行）から



出することへの築港住民の医療不安をどう解消すべきか。今、充分に利用され喜ばれている三施設（区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザ）の廃止は区民のためになるか、市民財産の民間への売却とコスト削減が主目的ではないか、運営者や利用者は納得するか、施設は残すべきではないか。

変革の声ふまえた施策へ

区政議 防災・福祉などで意見交わす



→都構想住民投票の結果を受けて防災・防犯、こども青少年、福祉の各分野で意見が交わされた今年度最初の区政会議Ⅱ六月二十九日夜

「都構想住民投票の結果をふまえ、よりよい区政へ力を合わせよう」。六月二十九日に港区役所で開かれた今年度第一回の「港区区政会議」には委員三十一人(四十九人中)と区役所職員二十数人が参加。防災・防犯、こども青少年、福祉の各分野について意見を交わしました。

田端尚伸区長

冒頭、田端尚伸区長は「都構想住民投票では賛成・反対問わず強かった市政変革への声を踏まえ、より区民の立場に立った施策を進めたい」と公募区長としての来年三月の任期満了を視野に抱負を語り、活発な議論を呼びかけました。

◆目標達成・未達成を報告

中心議題の一つ「平成二十八年度の施策・事業の評価」については総合政策担当課長から、港区運営方針の六本の柱に沿って、この間の取り組み実績と自己評価が示されました。

この中では、①一本目の柱「区民主体のまちづくり」では「広報紙配布事業の社会的ビジネス化」など十一の目標全てを達成した②「本目の柱「安全・安心・快適なまちづくり」では「全十一地域で地域防災計画を作成する」など十四の目標を達成したが、七つの目標は達成できなかった

かった③三本目の柱「健やかにいきいきと暮らせるまちづくり」では「保健福祉センターでの胃がん検診一回当たりの受診者五十人」など九つの目標を達成したが、二つの目標は達成できなかった④四本目の柱「子育て世代が魅力を感じるまちづくり」では「スクールソーシャルワーカーによって解決・好転したケース十件」など十八の目標を達成したが、一つの目標は達成できなかった⑤五本目の柱「訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」では「弁天町駅前事業用地の活用基本計画の策定」など九つの目標を達成したが、二つの目標は達成できなかった⑥六本目の柱「自律した自治体型の区政運営」では「区政会議で出された意見や評価を施策や事業に反映させた件数十件」など六つの目標を達成できたが、二つの目標は達成できなかった一などが注目されました。

◆区独自の取り組みを紹介

また、もう一つの中心議題である「平成二十七年の取り組みについて」では、同じく総合政策担当課長から「防災」「防犯」「福祉」について、それぞれの三万年計画(平成二十五〜

十七年度の進捗状況が報告されました。

その中では、①至十一地域で地域特性に応じた防災計画を策定した②大規模災害時の防災で協力できる企業四十四社が登録され、郵便局長十人すべてと協定書を交わした③落書き消去活動への支援として「ひまわり壁画」を作成した④警察と連携して十六カ所へ効果的に防犯カメラを設置したなどが区独自の取り組みとして紹介されたのが注目されました。

◆「弁天町駅前ハリアフリー」などで意見

「いつした説明の後には質疑応答があり、その中では次のようなやり取りが注目されました。

- ・弁天町駅前交差点のハリアフリー化はどこまで進んでいるのか(大西委員)→「年度中に地下道エレベーターの詳細が設計され、平成一九、三十年代中に設置できる見通しだ(区長)

- ・国道四十二号を越えるのは特に弱者には困難。弁天町駅前交差点で地下へ降りたらどの方向へも行けるような将来像を(大池委員)→「特異な交差点だが、そういう抜本的な変更も含めて国交省などに働きかけを続けたい(区長)

- ・区画整理記念事業で弁天町駅前に図書館や

←港区区政会議で議長を務める武智虎義さん(上)と、冒頭であいさつする田端尚伸・港区長(下)



区民センターが移るが築港住民からますます遠くなる。図書館分室を築港に設けるなどできないか(坪本委員)→「そういう声も踏まえてより使い勝手の良い仕組みを検討していきたい(区長)

- ・放置自転車対策では進んでいる所とそうでない所があるが、効果を上げている取り組みをヒントに具体策を打ち出せないか(大田委員)→「弁天町駅前の見回りや絵付けなどで効果を上げていることを踏まえて、さらに効果的な仕組み作りを共に考えていきたい(まち魅力創造担当課長)」
- 弁天町駅前は夜に、朝潮橋駅前は昼に不法駐輪が目立つなど、地域ごとに特性があるので、まずは各地域の具体的な状況をつかむことから取り組みを進めたい(区長)

- ・自転車マナーの悪さは目に見える。駐輪場へ入れない自転車は没収するぐらいの厳しい対応が必要では(尾方委員)→八月の法改正を受けて区役所でもHPなどで広報に努めている。要望があれば喜んでマナー啓発に出向きたいので、協力を(まち魅力創造担当課長)

- ・がん検診の目標は達成したというが、受診率そのものはまだまだ低い現状をどう考えるか(山本委員)→「啓発で自発的受診を促すことを基本に、大阪市のワーキングなども参考にしながら取り組んでいきたい(保健福祉担当課長)

- ・校庭の芝生化はどこまで進んでいるか(森下委員)→「平成十八年度に築港中、築港小、南市岡小で実現した(協働まちづくり支援課長)」

◆「気概が感じられた」と傍聴者

終つ後、傍聴した区民は「住民投票での構想の決着を受けて、より良い港区へという気概が感じられました」「参加の市議から『ポイントを絞った報告を』との声がありましたが、役所は細部に亘る丁寧な仕事を持ち味。そこから重点や問題点を見出すのが委員の役目。今のやり方で問題ないのでは」と話していました。

あさやけ

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり」の冒頭で有名な『平家物語』。その中に「たけき者も遂にはほろびぬ」の悲劇を招く要因として「天下の乱れむ事をとらず」「民間の愁ふる所を知らず」「なにごと並べて」諫をも思ひいれず」との一節があります▼かつて自民党に所属した与野党の重鎮（山崎、亀井、藤井、武村の四氏が八月、安全保障関連法案の今国会成立をめざす安倍政権に「待った」をかけたように相次いで「忠言」を呈したものの「関係ない」「政権幹部と無視された」とは周知の通り。本紙投稿欄「みなじサロン」の常連、勝部義典などもすかさず取り上げ、その間、耳持ため姿勢、とりわけ国民の声より米国の顔色ばかり窺う姿勢に警鐘を発しておられますが、正に平家物語にある「諫」を無視した果ての「盛者必衰」を予感させる昨今の政情ではあります▼その上で、それにも増して筆者が危うくまた情けなく思ったのは、米下院外交委員会で行なわれた安倍首相

相の英語演説です。米財界や軍部の求めに応じ、TPP交渉の妥結や安保法制への全力投入を身振り手振りで約束し、彼らから「合格点」を与えられたのは四月末。その一方で米メディアは「顔を上げて拍手を促す」などと記されたト書きの存在や、直前まで練習に汗を流していた姿をからかい半分に報じています▼こうした屈辱的な光景に多くの心ある知識人が「この国は果たして正気の国か」「国家元首が外国で演説する場合、一歩譲って英語に堪能であったとしても、自分の国の言葉で行なうことが国家の品格を示す最良の方法ではないのか」「寺島隆吉・国際教育総合文化研究所長など心を痛めたのも無理はありません▼振り返れば一九五二年サンフランシスコ講和会議で全権代表・吉田茂が講和（つまり国際社会への復帰）の代償として米安保条約に調印させられた際、米担当ダレスが「これで我々が望みだけの兵力を、望む場所に望む期間だけ駐留させる権利が得られた」と嘯いたのは有名な話。加えて近年、①吉田は日本から持参した原稿で演説するつもりだったが米軍に検閲・修正された文章を読まされ

た②講和条約の日本語正文は作られなかった③安保条約は余りにも米国に有利な内容だったため日本語訳が作られたのは調印一時間前だった一などが歴史学者らによって暴露されています。つまりいつしか戦後関係が未だに続いていることをものの見事に象徴したのがこの英語演説だったと言えるでしょう▼かように、長きに背き、おまけに他国に認める政治に未来はあるのか。先に引用した寺島氏はやはりその著で、①英語が得意でノーベル賞を得た日本人は一人もない②OECD（経済協力開発機構）の三年国際成人力テスト（十八〜六十五歳で日本人は数学的思考力・読み書き能力・問題解決能力のいずれも世界一だった）との事実を挙げ、「これだけの学力が昨今の国々への英語熟で転落していくのではないかと恐怖を隠していません。かつての高度成長に功罪はあるものの、その「奇跡」を可能にしたのは正しく日本人の勤勉と日本語の力。それを生かして真の独立を名実ともに成し遂げる政治こそ戦後七十年に求められているのではないだろうか。平家の悲劇が平成の悲劇とならぬことを祈つてやみません。

叫びたい！

ここに まことし

小西 正敏さん（六三歳 田中）



ふるさと寄附金で

市の文化は守れるか

大阪市の広報や新聞報道によると、市はこのほど市内の芸術・文化団体を応援するため、従来の補助金を全廃し、新たな支援の仕組みとして「なにわの芸術応援募金」事業を作りました。これは、「ふるさとを応援したい」という人

ちから寄附金を募り、そこから広報費五割を差し引いた金額を、その人が応援したい文化・芸術団体へ交付するもので、既に全国的に実施されている「ふるさと寄附金」のメニューの一つとして大阪市が独自に考え出したものです。

このため、寄附する人たちは、その金額に応じて住民税が減額されるなどのメリットがあります。一方、寄附を受ける団体は、市内に主な事務所を持ち、市内を拠点に一年以上の活動実績がある公益法人やNPO法人などに限られ、今回、その条件に合った十四団体が、公募によって選定・登録されました。

さて、この事業は一見、市の文化を守り育てる目的を持った、また市の財政難を補える、大変素晴らしい事業であるように思われますが、以下の点で、私は非常に問題があると考えます。

◆ 任意団体に恩恵なし、運営も不安定に

まず、この事業で応援できる団体がわずか十四に限定され、しかも公益法人やNPO法人に限られるという問題です。大阪市には法人格を持たなくとも立派に活動している文化・芸術団体は数多く存在し、そうした任意団体は当然

この事業の恩恵を受けられないこととなります。が、それで本主に、大阪市の文化・芸術の振興につながるのでしょうか。

一点目として、これも当然のことながら、寄附金の額は、その時々を経済状況や、ふるさとを応援する人たちの芸術・文化への理解の度合いに左右されます。そのため、たとえ寄附金を受けられた団体であっても、その運営は安定しない可能性が多分にあります。

◆ 安易な方法に頼らず、息長く安定的に

二点目、これが一番の問題ですが、これまで市予算から出してきた助成金を廃して「ふるさと寄附金」という名のいわば善意募金で賄おうというやり方は、俗に言う「他人の俸で相撲を取る」ものであり、行政責任の放棄と断言せざるを得ません。そもそも文化の育成にはお金がかかるもの。安易な方法に頼らず、他の無駄な支出を抑え、息長く、広く、安定的に支援を講じるという行政の務めではないでしょうか。

既に対象団体はこの制度について「安定した事業ができなくなる」と危機感を募らせています。読者の率直な感想をお待ちしています。

叫びたいわ！

たかはし けんじ

高橋 健治さん（六二歳 港晴）



加害と被害直視した

平和運動を今こそ！

安倍政権は「安全主保障関連法案」を何とか国会で成立させようと、戦後最長の九十五日間延長しました。この「戦争法案」については自民党の重鎮や憲法学者、元法制局長官らが「解

釈改憲での法案成立は無謀」と批判し、何より国民の多くが反対の声を挙げています。が、そんな状況を政府は「力技」で押し切りの「成立」させる暴挙を口論しています。安倍政権に近い若手議員が最近開いた勉強会での「政権批判をする」琉球新報、沖縄タイムスの一紙をつぶせ「政権批判をするマスコミはスポンサーに圧力をかけて懲らしめろ」等々の発言は何を言わんや。日々新たな問題が起きる中、この提言が掲載される時点での情勢は予想もできません。

◆『ジョン・ラーベ 南京のシンドラ』
さて、この「戦争法案」と表裏一体の社会現象として、二〇〇九年製作の映画『ジョン・ラーベ 南京のシンドラ』（ドイツ・フランス・中国合作で、ヨーロッパでは高い評価を得ています）をめぐる問題に言及したいと思います。

この映画はかの「南京大虐殺」を主題に、当時のドイツのシーメンス社南京支社長でありナチス党員のジョン・ラーベの日記を元に製作されています。彼は日本軍の南京占領（一九三七）に備え、市民の安全を図るため「安全区」を創設し、その責任者になります。その後、様々

な困難に立ち向かいますが、占領後、その残虐な行為から全ての人々を救えないように自ら矛盾を抱えながらも、人道主義の立場から全力で奮闘する、という筋書きです。

◆上映を自主規制
ここで大きな問題と思われるのは、日本の映画配給会社が「一部勢力の圧力による混乱」を恐れて自主規制し、放映権を買わなかったことです。それは日本の映画館では一切上映できないことを意味します。つまり、映画の内容や歴史認識がどうであれ、放映を自主規制したということは、世情に流されて表現の自由を自ら放棄したことになる。これは先に見たように、「戦争法案」をめぐるマスコミが政権の顔色をうかがう傾向へ誘導する、日本社会の現状そのものではないでしょうか。

◆DVDも販売と自棄
そんな問題を抱えながらも、この映画は一四年から各地の良心的な有志が実行委員会を立ち上げ、細々と自主上映されてきました。が、その上でこの問題と思われるのは、DVDが製作されたものの、インターネットで検索して

も最大手シヨップでは入手できないことです。

これは何を意味しているのでしょうか。販売を自粛しているのでしょうか考えられません。手を尽くして調査しましたが、一部の外資系シヨップとごく一部のシヨップ(在庫が少ない)、もしくはオークションでしか入手できないのです。それゆえこの映画の存在自体を知らない人の方が圧倒的に多いと思われます。かくいつ私もまたまネット検索で発見した次第です。これは、かつてその上映が困難視され、物議を醸したドキユメンタリー映画『靖国』の問題以上です。

◆「生きた捕虜は見たくない」

ところで、この映画『ジョン・ラーベ 南京のシンドラー』の日本人出演者は香川照之、杉本哲太、ARATA、柄本明ら豪華メンバーです。彼らの俳優としての社会的立場を考慮すれば、単なるプロパガンダ映画に出演するとは考えられません。筋書などの説明は省きますが、とりわけ香川が演じる皇族将校・朝香宮鳩彦王の存在がこの映画の根幹となります。

南京攻略戦の途上で彼は小瀬少佐(ARATA)に「敵を包囲して降伏させる」作戦について

「君は像狩りをしたことがあるかと問いかけ、それは包囲するよりもなく、降伏するためには弱らせなければならぬ、捕獲するよりもなく、殺るが殺られるかである」と言い放ちます。そしてその作戦後、投降者を殺害せず捕虜にして連れ帰った少佐に「よくやった。しかし腑に落ちないのは、私があれば捕虜は取るなど命令したのに君は何千人もの捕虜を連れ帰った。明日の朝、私は生きた捕虜は見たくないぞ(暗に殺害命令)。そこで小瀬は自己矛盾を感じながらも、意に反し、捕虜全員を射殺するのです。こうして南京を攻略した後、日本軍がいかに残酷な行いを行なったかについては、既に歴史的に明らかになっていますので、説明する必要もありませんが、攻略前にもこうした事実があったことを、この映画は告発したのです。そして上映後、あることが、朝香宮鳩彦王を好演した香川は「売国奴」として、ネット上で散々、誹謗中傷を浴びたのです。

◆微小な違いあげつつ評論家たち

またこの映画は、ジョン・ラーベ個人の日記が元になっていますので、事実や数字の捉え方で

多少のずれや、また映画化といつこと若干の脚色はあったと思われます。が、生証人がほとんどいない中、そうした微小な違いをあげつらい、自虐史観として「虐殺の事実はない」とする自称「評論家」たちに組み立てることはできません。

因みに、主人公のラーベは帰国後、ナチス党員であったために不遇をがち、極貧生活の中で非業の死を遂げますが、俳優・香川への誹謗と合わせて考えさせられる問題です。

◆「大空襲の体験を語る集い」へ

繰り返しますが、「南京大虐殺」は事実としてあったのです。そうした過去の歴史を直視し、虐殺や略奪などの加害と、原爆や大空襲などの受難の歴史を併せて後世に伝承することこそ、現在を生きる私たちの責務であり、また本来の平和運動ではないでしょうか。

今まさに戦争の足音が聞こえてきました。今年も「大空襲の体験を語る集い」を開催します(次頁「あれこれガイド」に案内)。発言は自由です。奮ってのご参加を心から呼びかけます。

(特定非営利活動法人 NPO びなと 理事)

あれこれガイド

● **大空襲の体験を語る集い** 戦争の被害と加害の歴史を正しく伝え、憲法九条を守り、地域に平和の力を築くため毎夏開かれる取り組みの十五回目。八月一日(土)十三時半から田中機械ホール(南市国二・六・一六)で。参加無料。戦地体験者・空襲体験者・疎開体験者などのお話を中心に、平和映画の上映、戦争関連写真・絵画・資料の展示など。戦争体験の語り部募集中。問い合わせは主催のNPOみなと(☎八五八三・四八五八)まで。



→今年も開かれる「大空襲の体験を語る集い」①と「国保交渉」②(写真はいずれも過去の模様)

● **国保交渉** 高すぎる国民健康保険料の引き下げを市に求める交渉。八月前半の平日(未定の十四〜十八時に港区役所五階会議室で。深まる貧困化の中で「食えば払えず、払えば食えず」という庶民の実情を訴えると共に、①保険料の引き下げ②保険料減免制度の拡充③生活困窮世帯への滞納処分中止④医療費窓口負担減免制度の拡充などを、市の窓口である港区役所窓口サービス課保険年金担当に求める。参加無料。区内の諸団体から成る「港区国保対策連絡会」が主催。☎八五七二・七八六七。

● **港区私たちと戦争展** あの戦争から七十年。次世代に戦争の真実を語り継ぎ、平和を送り継ぐための三年間の休止から復活開催。日中戦争、国防婦人会、大阪大空襲、原爆投下、戦後復興、平和運動などの歴史を写真・絵画・遺品などで辿る。七月二十五日(土)十一〜二十時と二十六日(日)九時半〜十八時に港区民センターで。展示充実へ戦前・戦中・戦後のアルバムなど資料の提供歓迎終了後返却)。成功へ五百田署名と広告掲載を募集。申し込み・問い合わせは主催の港戦争実行委員会(磯路一・七二「港生活と健康を

守る会内、☎八五七六・四八〇九)へ。

→過去の「港区私たちと戦争展」から



● **「赤レンガ倉庫横広場」でイベントなどを行う利用者者を募集** 築港・天保山地区の魅力を出発信し、にぎわいのあるまちづくりを進める「築港・天保山にぎわいまちづくり実行委員会」が、海浜通の「赤レンガ倉庫横広場」でイベントなどを行なう利用者(個人事業主・NPO団体・企業など)を募集中。利用日は二期に分かれ、第一期は八月一日〜十月三十一日の土・日・祝日(申込受付は七月一日〜九月三十日)。第二期は十一月一日〜平成二十八年一月三十一日の土・日・祝日(申込受付は八月一日〜十二月三十一日)。第二期は平成二十八年一月一日〜三月三十一日の土・日・祝日(申込受付は十一月一日〜平

成 千八年 月 千九日。利用可能時間はいずれも原則九時〜十七時半、夜間イベント（イルミネーションなど）の場合は二十時まで。利用料金は、有料イベントなら三時間ごとに百平方メートルあたり一〇二〇円、無料イベントなら同五二〇円、写真撮影の場は三時間ごとに七五八〇円。応募方法などの詳細問い合わせや申し込みは同実行委担当・松本さん（メール：hbk913@ybb.ne.jp、TEL・FAX：〇六・六五七二・〇〇二七）まで（電話問い合わせは平日十〜十五時）。



→利用が呼びかけられている赤レンガ倉庫横広場。上は現状、下は過去のイベント風景

←市岡下水処理場のイベントから「夏休み子供教室」①と「お花見」②（いずれも昨年の様子）



●市岡下水処理場のイベント ①夏休み子供

教室 八月二日（土）午前九時〜十時半。小学四〜六年生を対象にした催しの二回目。DVDやパワーポイントで大阪市の下処理場の勉強ができる。クイズあり。夏休みの宿題に役立つ。

定員三十名。前日までに電話申し込み必要②お花見 八月 十三日（日）と二十日（日）の午前七時半〜十一時。百日紅の開花に合わせて催しの二回目。涼しい時間帯に向日葵など他の花も合わせて観賞できる。撮影写真や絵画作品は後日の一般公開日に展示③一般公開 十月二日（土）十〜十八時（小雨決行）。汚れた水がよみがえる仕組みを学べる「施設見学」（最終回は十五時半が

ら）をメインに、①微生物の顕微鏡観察②下水道の歴史を学べるDVD上映③下水道資源の有効利用④ゲーム⑤みなりん⑥ミニ消防車にのれる（午前十〜十一時）などのコーナー。地球環境に優しい肥料や透水性レンガなどのプレゼントあり。家族で楽しめる工夫が一杯▽市岡 一・一五・二五。六五七二・三三六三。

●西村捨三翁銅像献花式 大阪港開港記念日

の朝、同港発展の礎を築いた初代築港事務所長・西村捨三氏を追慕し、その偉業を讃え、同港発展を祈念する恒例行事。築港中学校生徒の吹奏楽演奏、お祝い、献花、記念撮影など。参加自由。七月十五日（水）九時半〜同四十五分に天



→大阪港発展の礎を築いた西村捨三・初代築港事務所長①と、昨年の銅像献花式の模様②

保山公園内 西村捨三銅像前で。問い合わせは主催の公益社団法人 大阪港振興協会(築港一・一二第一大阪港ビル七階、TEL六五七五・九五七五、FAX六五七五・九五七六)まで。

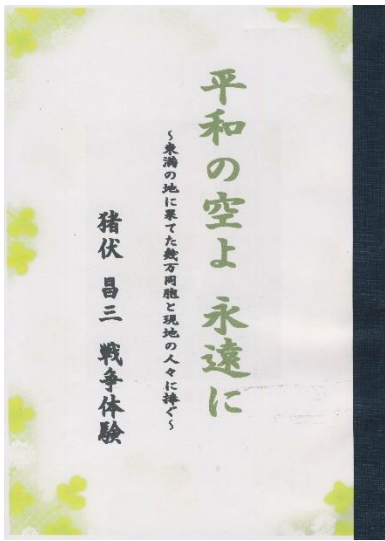
●中学生・海の作文コンクール 海への関心と知識を深めるため毎年実施。テーマは海・船・港・川・湖など広く海に関わる自然や仕事や体験などについて感じたり考えたりしたこと。四百字詰め原稿用紙五枚以内(題名・学校名・学年・ふりがな付き氏名を明記)。一人一点。九月三十日(水)必着。入選(金賞・銀賞・銅賞・佳作)の計四十名(発表は十二月下旬。申し込み・問い合わせは主催の公益社団法人近畿海事広報協会 (〒555



→「中学生・海の作文コンクール」のイメージ

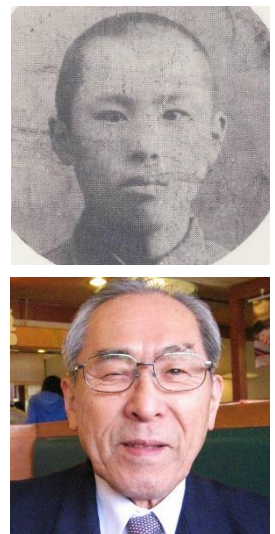
2・0021 大阪市港区築港二・七・一五港振興ビル204号室、☎六五七三・六三八七、HPは<http://kinkikai-j-sakura.ne.jp/>へ。

●戦争体験記『平和の空よ 永遠に』 東満州・延吉^{えんきよ}で終戦を迎えた十六歳の少年が日本に帰り着くまでの波乱と苦難に満ちた体験を綴った感動の書。戦後七十年に鑑み^{かんみ}、次世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継がんと、本紙二〇二三年五月〜二〇二四年一月に連載の「平和のため戦争体験語り継ぐ」に加筆し、資料を添えて入魂の冊子化。希望者には三百円(送料三冊で百五十円)で頒布^{はんぷ}。詳細は筆者 猪伏昌三^{いのぶしやうぞう}で



→戦争体験記『平和の空よ 永遠に』

←著者・猪伏昌三さんの少年時代(上)と近影(下)



ん(〒531・0074 大阪市北区本庄東一・四・一・二二三、TEL・FAX〇六・七五〇八・一一七、Eメールmk5@w2.dion.ne.jp)へ。著者はもと港区田中の住民。

●ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凧一・六・三、☎六五七二・七五一一)。

●ムチ打ち(首・腰) 無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談

会。七月 王八日(日) 十時十八時に行政書士のむら事務所(築港三・七・一・六〇八)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで。「どついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん。Eメール: info@jikkoi10-nomura.com、TEL 六五七六・六〇七八、FAX 六五七六・六〇七九。

●緑の地球ネットワーク(GEN) 中国山西

省大同市の黄土高原で九一年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。次のような協力方法がある。①会員になる②年会費二万二千円③会報を購読する④年間 千円⑤カンパする⑥税制上の優遇措置あり⑦絵はがき『黄土高原の花』を購入する⑧八枚組二百円⑨ビデオ『よみがえる森』を購入する⑩三十分五千円⑪換金できる物を送る⑫古切手・書画損じはがき・外国コイン・商品券などのポランティアになる⑬会報発送など⑭黄土高原スタディツアーに参加する⑮黄土高原を訪問し、緑化協力の成果を観察

↑ GEN①とクリニックラウン②の活動イメージ



し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。次回は八月 王八日(土)〜二十八日(金)の六泊七日。費用十八万円。定員三十名程度⑨DVD『黄色い大地に広がる緑・草の根環境協力の二十年』を観る⑩緑化協力二十周年を記念して制作。約三十分。無料▽いずれも詳細・申込などはGENの事務所(市岡一・四・一四・五階、☎六五七六・六二八一、FAX 六五七六・六二八一、Eメール genttree@s4.dion.ne.jp、ホームページ http://homepages3.nifty.com/genttree/へ。

●日本クリニックラウン協会

入院生活を送る子どもたちを定期的に訪問し、遊びとユーモア

を届け、笑顔を育む臨床道化師「クリニックラウン」の活動を普及推進する特定非営利活動法人。二〇〇五年から港区を拠点に全国で活動(六月に大阪市北区へ事務所移転)▽チャリティーイベント「RED NOSE DAY」⑧八月七日(金)正午から一分間、赤い鼻をつけて笑顔を贈る。全国どこでも参加可能。同日十一時半〜正午に北区の阪急つめだ本店九階祝祭広場でも実施▽ブース出展⑨七月 王二日(水)〜二十八日(火)に阪急つめだ本店九階祝祭広場で開催のH2OサントナPPOフェスティバルで活動紹介。入場無料▽新規クリニックラウン募集⑩二〇一六年度研修生を募集▽支援の方法⑪「寄付する」⑫「会員(活動会員・賛助会員)になる」⑬「メンバー(ひと月単位のサポーターになる」⑭関連イベントに参加する⑮他▽いずれも詳細や申込は同協会事務局(大阪市北区末広町三・二二天しもビル3B、TEL 四七九・一八七二六、FAX 四七九・一八七四六、Eメール info@cliniclowns.jp、ホームページ http://www.cliniclowns.jp、ホームページ http://www.cliniclowns.jp/へ。

みなとサロ

何を急いで『戦争法案』

池島・勝部 泰臣 八十二歳

女性スキャンダルで結局は失脚となった元自民党副総裁・山崎拓氏ほか三名の自民党OBが安保法案行き過ぎを戒めた記事。その昔、角栄首相の懐刀と言われたカミソリ後藤田氏ほどの迫力はないにしても、戦争を知る政治家と知らない政治家との最近のギャップは何だろう。自民総務会は全員一致が原則という。従って村上天つ総務は一人だけ反対意見を述べてから退席するつもりである。

言っているの、戦争法案は、選挙の時は表に出さず、有権者のほとんどが『景気回復・経済優先』で自民を支持した。投票率が低いから有権者の十七パーセントが支持者。百人に十七人。その自民支持者として今の国会審議中の法案に全て賛成と手ではぐくまう。

年寄り三人寄れば、それぞれ、親兄弟、親類

縁者、何らかの形で悲しい思いをしてきた話題になってしまつ。右も左もない。結局は人殺しなんだ、戦争は。朝鮮戦争、ベトナム戦争…。運よく生還した米兵の多くが精神疾患で自殺したり廃人同様になったりしている事実は知る人ぞ知るところ。

今の政治家は選挙の後には聞く耳を持たない人がほとんど。憲法専門の学者の発言すら排するほどのこの人たち。一般有権者からすれば、何を急いで米国追従に向かつて走ってるんだとなる。民主主義をこの国に植え付けたアメリカだが、自国のためになることならダンマリを決め込んで、誰も目にする事ができない『魔物』に圧力をかけさせ続けている、そう思わないと納得できない最近の状況である。

余生少ない我が身、七十年前の腹へ口時代を思い出さずにはいられない。

.....

「都構想」論争生かす観念に共感

(市国元町・七十年代 元公務員)

『港区を良い方向へ』願い再出発、と題した八月号のトビ記事(二頁)と「市と港区

の未来のための賛否越え総括運動を」と題した貴紙主張(四頁)を読んで。特に、投票日当日の詳細なルポを踏まえて提起された「総括運動」の呼びかけに共感を覚えました。

元公務員として、橋下市長の労働者敵視や、何でも民間委託の姿勢、経営者感覚の強引な手法には、退職後も危惧と反発を感じていたので、「都構想は絶対通してはならない」とこの思いから、説明会に参加したり、知人に「反対」を呼びかけたりもした私たち夫婦ですが、僅差での否決に「本当に良かった」と胸をなでおろした次第です。貴紙コラム「あさやけ」にも同じような安堵の思いがあらわれていて、思わず笑ってしまいました。

その上で、そのあふれる安堵と喜びを抑えつつ提起された「総括運動」ですが、そのポイント、つまり、①論争による切磋琢磨を財産に②分断と対立の早急な克服を③共通の願いを土台にまちづくりを④論争点は引き続き解決努力を⑤国政変革めざす中でこそ根本変革を―は必要なポイントが全て含まれた、また賛成派にも反対派にも気が配られた、実にバランスの取

れた内容であり、これ以外には考えられないのではないかと思います。特に五項目は、地方が地方だけで変わることはできないという、当然といえば当然のことながら、意外と見過ごされがちで、一般紙の論評にもほとんど見られない観点ですが、非常に重要な提起だと思います。この理想的な総括を実際に行なう人や組織がどれだけ現われるかは、はなはだ心もとないところですが、大阪市民が真つ心に割れてまで論争したエネルギーを無駄にせず、今後のまちづくりを生かそうという貴紙のまっとうな主張は、すべには口の実を見ても、いずれいびい銀のよつに輝きを放つてくると思われる。

..... 実体験ひまえた小西提言

三先・六十代 商店主

いつも「叫んでいいとも」欄を最初に読みます。六月の「介護保険の認定は適切にされているか」という小西さんの提言（七頁）は「認定通知が期限内に来ない」「介護度調査は実態に合っていない」と指摘するのですが、母のデイサービス利用という実体験をひまえて

辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙



の内容だけに説得力がありました。また私の八十代の父も市内他区で介護サービスを受けているので他人事とは思えず、身につまされました。とはいえ私は、介護という国民生活に不可欠な分野を民間のサービスで賄おうという介護保険制度には、発足当初から疑問を持っていたので、このような形で次々と矛盾が吹き出してきていることは、ある程度予想していました。いくつ財政的に苦しいても、いくつ分野は国としての面子（めづ）にかけても公的にやり抜くべきだと私は考えています。というわけで、そういう根本的なところへ突っ込みを入れたら、さらに鋭い提言になったのではないかと思います。

..... 市民の財産なぜ売り払う？

（波除・七十代 男性）

大阪市議会は八月十日、市が保有する水族館「海遊館」の株式二万株を千四億八千万円で近鉄グループホールディングスに売却することを維新、自民、公明、みらいなどの賛成多数で承認しました。これによって、早ければ七月にも民営化されるということです。この株式売却は二〇〇七年ごろに近鉄とほぼ同意していたのですが、翌年の市議会では「市民の貴重な財産には慎重な議論が必要」と反発され、否決されたもの。それを橋下市長が「外郭団体の見直し」といつことでまたもや持ち出し、近鉄と交渉を進め、今度はどういつわけか、一転、可決されたのです。この間、変身した政党や議員からの説明は全くありませんでした。

この海遊館のみならず、港区では市岡商業高校をはじめ、老人福祉センターや区民センターや子ども・子育てプラザなど、これまで区民に親しまれてきた施設が、市長の「市政改革」とやらで一方向的に「廃止・跡地売却」を決められ

ています。そして海遊館の場合と同じく、港区選出の議員からは何の説明もありません。

いじごらの施設はいわば市民の財産です。いくら財政難とはいえ、なぜいつも簡単に民間への売り払いが通ってしまうのでしょうか。また財政難というなら、無駄な支出は他にないのでしょうか。そもそも市民財産を民間の手に託されたのは、議員は何を考へてこのようにしたのでしょうか。市民として虚しい気持ちになるのは私だけではないと思います。貴紙の追及を期待します。

港区の活発な文化活動に感心

（此花区・七十年代 白田 業）
ネット上で愛読しています。六月までは港区の文化活動の活発さに感心しました。此花区もこの点ではけっこう活発ですが、役所主導のイベントが多いように思われます。記事では詩吟の発表会やカラオケコンサート、主婦画家の個展、演劇それに歌声運動と、民間レベルのユニークで多彩な活動が紹介されていましたが、模様が目に浮かぶように、私自身、過去にグループで地域のカラオケイベントに関わった経験があります。

ので、特に主催の方が喜ばれたらいいと察しました。政治活動は色々難しい問題もありますが、文化活動は罪がなく、平和です。戦争体験（司）き揚げがある私としてはどっちからかというところ、楽しく穏やかな記事を望みます。

「港区歴史ガイド」面白く

（市岡・四十年代 会井 寛）
「みっちゃん」の港区なるほど歴史ガイド ロシアの黒船騒動 その二（六月）三十四頁を読んで、百六十年も前の港区での出来事が、講談調の語り口でリアルにテンポよく書かれ、面白く読むことができました（講談は一度テレビで観たことがあります）が、けっこう分り易く、楽しいものでした。またこの頃からアメリカやロシアが競い合ってアジアを乗っ取ろうとしていたことが分り、いつの時代も強い国が弱い国をいじめるパターンは変わらないのかと複雑な気持ちにもなりました。個人名などの難しい漢字にふりがなを付けてくれているのはうれしいです。それに、みっちゃんとはどんな人なのか…（笑）。とにかく続きが楽しみです。

小川さん「戦争体験」じっくり読む

（市岡・七十年代 女性）
毎月冊子を届けて頂き、ありがとうございます。六月までは、新しく始まった小川宏さんの「戦争体験」二十八頁を興味深く読ませて頂きました。小川さんは町会など地域での活躍を存じておりましたが、こんな体験を語られる年齢とは思っていませんでした。意外でしたが、中国大陸から太平洋へと戦争が広がっていく時代の空気がよく分かりました。市岡バラダイスや長屋の様子も生き生きと語られ、統制経済の中でも当時の港区には活気があったことも分かりました。また、お父さんやお爺さんのんびりした性格や、長男として甘やかされて育ったことを正直に語られているのが微笑ましく感じられました。これから厳しい生活に入っていくのでしょうか。しっかり読ませて頂きます。

面白くするための「あさやけ」

（三光・ライター）
いつも「あさやけ」から読めます。六月までは

また、いつもは最後に落とされるのに、「ここ
では」一時はうつなるが、「いや一時はうつな
るか」といきなりの吉本ギャグ。続く「オーサ
カ市民はオーバカ市民か」との突っ込みはちょ
っと勇み足かとも感じましたが、筆者の都構想
否決への安堵の表われとして、むしろ微笑まし
く受け取らせてもらいました。

生意気な子ですが、総じて面白くてたの
しい。なにより「あややけ」の面目躍如の筆運びでした。

なほいんち

(港晴·六十代自営業)

ある捨て猫に思う

かせたいしゅう
(港の加勢大周)

先日、怪我をした野良猫を保護した。その猫は元々飼われていたが、一年半前に捨てられた。それで、その後、何者かに釘を打ち込まれたのを見た人もいる。実際、左手の指一本は骨が砕けて肉球は破れ、柵欄状態だった。この港区でも弱い生き物を虐待する人がいることに改めて驚かされた。飼い主がいなくても不幸なのに、危害まで加えるとは人間のやることではない。弱者を苦しめ何とも思わない感覚は、今の自公政権やその親玉・米国と同じではないか。

住まいの防犯レベル高めよう

① ワンドア・ツーロックは常識

② ピッキングに強いカギに交換

③ 窓にも補助錠の取り付けを

PHS・
携帯OK  **0120-70-5569**

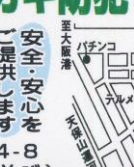
(アニ) 港カギ防犯センター



ご提供します

安全・安心を

港区港晴 1-4-8
(港晴小学校並び)



港カギ防犯センター

☆ 大阪府錠前技術者防犯協力会会員
☆ 港防犯協会会員 ☆ 防犯設備士第00-6738号

戦争から
70年
港区私と戦争展
7月25・26日
港区民ホール
にて

「港戦争展」は30余年、身近な歴史を掘りだし、平和の心の確かな糧としてきました。今、歴史の事実を消し去って「憲法」の平和の誓いを破びやかす暴風が吹き荒れようとしています。

戦後70年、真実を消すのか、しっかりと刻み新たに平和を誓うのか、どの「記念」にするのか、重大なわかれ道の節目です。

みんなの力よせあって成功させよう

もちろん「港戦争展」は新たに平和を誓う「70年記念」です。語りつきの主役だった体験世代、中でも「ひめゆり世代」や「疎開世代」はなお健在。大壁面に「平和を守るのは私たち」と掲げた世代は今お母さんお父さん。しっかりと語りつぎすきな平和の心になし手に着ってほしい若者たち。子どもたちなど。みんなの力をよめあって「70年記念・港戦争展」を成功させましょう。

真実の歴史の証しを豊かに展示

港区は中国侵略に始まる十五年戦争の一大出征基地でした。連戦から膨大な軍隊を送り出し「国防婦人会」榮祥の地となりました。昭和二十年三月と六月の大空襲が区全域を焼き尽くし、遂に二千数百の命を奪いました。子どもたちにとって最大の被害者であったことは、その年の平均寿命21・9才（男）が明瞭に物語っています。

加害も被害も「戦争の惨禍を決して繰り返させない」憲法の決意と誓いが骨身にしみこんだこの地です。港戦争展はその証しの過去帳や写真や図画など史資料を豊かに掘り起しつぎまします。埋もれたもの証しや体験は今掘り起しなくてはなりません。

桜爆・核の脅威も「世帯くの避難基地・沖縄の運命」や・・・

戦争の真実を語りつぎ、かならず平和をなげうつぎまします。

《しんぼん作戦》色紙に
「平和のながい」描こう

港戦争展 五〇〇巴署名 申込書

戦後70年港戦争展500巴署名と広告掲載を申し込みます。

氏名（ふりがな）	住	所	金額

戦前・戦中・戦後をしのぶよすがとなる
アルバムや文書など資料があればご連絡を

港戦争展実行委員会 6576-4809

大阪市港区磯路2-7-2 港生健会 内

花壇を夏の装いに

港南花づくりクラブなど 一斉植え替え



→ 植え替えに力を合わせる港南花づくりクラブの皆さん(左から三人目は田中代表、その左は板東顧問) 〓六月十三日朝、港警署の花壇で

さあ、港区の花壇を夏の装いに。 五〇六

月、区内の花づくりグループが一斉に苗の植え替えを行いました。このうち港南中学校下(三先・市岡・田中・夕丘・福崎)を活動区域とする港南花づくりクラブ(田中久美子代表、八名)は六月十三日朝、港警署(市岡二丁目)前の花壇の植え替え作業に力を合わせていました。

✿ マリーゴールドやベチユニア植える

梅雨の晴れ間とはいえ真夏のような日差しが注ぐ中、メンバーは、昨冬から今春まで花壇を飾ってきたビオラやキンギョソウを抜き、多年草のラベンダーやダリヤやキクは生かしたまま、新たにマリーゴールドやベチユニアを植え込みました。一人が熱射病のため近くの整骨院で一時間休息するハプニングもありましたが、一時間ほどかけて作業は無事終了。大小二つの花壇は全て夏模様装いに改めました。

✿ 小学校や公園の花壇を世話

田中代表(市岡)によると、同クラブは区民による自主的な種花運動(種から育てる地域の花づくり事業)のハグループの一つとして、緑化リーダー(大阪府が認証)を中心に、〇九年

四月に正式発足。市長が橋下氏になってから市の財政援助はなくなったものの、拠点となる港南中学校三花づくり広場(三先)で種から育てた苗を活用し、同校をはじめ、同署や市岡小、市岡浜公園、市岡児童遊園など八カ所の花壇への植え込みと維持管理を担ってきました。また港消防署や港税務署など区域外の花壇を担当するグループにも苗を分けてあげるなど、区全体が花と緑で飾られるよう連携を図っています。

✿ 「きれいな三つねつとやりがい

田中代表や板東忠則顧問をはじめとするメンバーの皆さんは維持管理はけっこう大変で、炎天下での雑草抜きや冬場の水やりなど、夏と冬は特に辛いです。でも、いくつ小さな種が双葉になり、本葉が出、花が咲くのを見ていると、本当に心が安らぎます。『地域の方から『きれいな三つねつとやりがい』と、嬉しくて疲れても飛び、『続けてきて良かった』とやりがいを感じます。』植え替えたあと、警署などは警員の方が水やりなどを続けて下さいますが、手がけた花壇はどれも元気になるので、見回りはしよつちゅうしています。』などと話していました。

安い楽しい温かい！

繁栄商店街「夜店まつり」



→身動きも取れないほどの賑わいを見せた繁栄商店街「繁栄韋駄天尊夜店まつり」。飲食や遊びの店が通路を埋めた。六月十三日、南市岡

安い、楽しい、温かい！ 夏のはじめ、アーケードの下に笑顔が溢れました。六月十三日（土）夜、南市岡三丁目の繁栄商店街に夜店が並び、地域の人々が工夫一杯の遊びや飲食を楽しみました。同商店街振興組合（小嶋幸造理事長）の主催で三十年以上にわたり毎夏の初めと終わりに催される伝統行事の「前篇」。またこの日は地域の守り尊である「韋駄天尊」の誕生日にあたることから「繁栄韋駄天尊夜店まつり」と命名。さらに今回初めて近隣のキングマンシヨン町会との共同企画で催されました。

● 懐かしさと目新しさ、遊び心と工夫

通路の両側には、「かき氷」「たこせんべい」など懐かしさと目新しさを組み合わせた食べ物店（どれも一〇〇円）や、「カプセルポン」「ポケモンレース」「プーさんすく」「どろようすく」「ニセ金魚すくい」など遊び心と工夫を凝らした遊び店（どれも一〇〇円）がずらり。そのどれもに子供たちの行列ができ、商店街の人たちが汗だくで対応していました。午後六時から八時まで、「いらっしや〜」「やったく〜」などの歓声が飛び交い、身動きもとれないほどでした。

「小さい子に「がんばれ！」と声をかける」「ジャンボガラガラスタップ」と、「サイコロゲーム」で見事ぞろ目を出した竹井君の振り」



● 初登場「クラシック演奏会」も

商店街の東端「ふとん館ひろのや」では初登場「ナイトコンサート」が三十分ずつ二回開かれ、クラリネットによるクラシックや『花は咲く』などの演奏がひととき来場者を癒しました。また東端の一角に設けられた「韋駄天尊」祭壇には、賽銭を投じて手を合わせる姿が後を絶たず、この商店街に寄せる住民の想いが感じられました。またこの日昼間に催された「繁栄ワイワイ市場」（四頁に記事）参加店のうち「似顔絵」など数軒が引き続き出店し、賑わいに花を添えました。

● 「地域のつながりを感じる」と参加者

「ガラガラを回す子供たちの真剣な顔つきが印象的だった『ビンゴゲーム』⑤と、大人がいつまでも必死になっていた『金魚すくい』⑥



「サイコロゲーム」でこの日初めてのぞろ目(六と六)を出して最高賞を獲得した竹井悠悟君は市岡小学校生。「夜店には毎年来ています。今日は母や姉・妹と来ましたがバラバラで楽しんでいます。他にビンゴや射的をしましたが、どれも面白かったです」と話していました。

また「カプセルポン」で見事シユートを決めて喝采を浴びていた松本一真君(南市岡小一年)の母親 清美さん(市岡元町)は「夜店には今回も来ています。今日はこの子の友達や家族と誘い合って来ました。ここへ来れば、普段なかなか会えない人たちとも会つことができ、地域

の繋がりが感じられます」と話していました。また商店街西端の「手打ちうどんきぬや食堂」前で、黒砂糖をかけたかき氷を食べていた佐野真優さん(市岡小二年)の母さん(南市岡のキングマンション在住)は「毎年参加しています。神社のお祭りなど違って、ここでは食べ物も遊びも百円と安いのが魅力。それに何より、学校の友達や家族の顔を何人も見ることができ、ああ同じ地域に生きているんだという一体感を感じられるのが嬉しいです」と話していました。

●「喜んでもらえ楽しい」エスタッフ

一方、「ポケモンレース」の世話役をしていた



→人気を二分した飲食店。上は栄養たっぷり「たこせんべい」にかぶりつく男の子ら、下は懐かしい味のイチゴかき氷を受け取る父子

「クラシック音楽でひととき癒しの世界に誘った初登場「ナイトコンサート」⑦と、韋駄天尊に賽銭を投じ、手を合わせる女性たち⑧



女性(同商店街「ロスメハウスナナイロ」店主の娘さんは「中学時代から三、四年、色々な店を手伝っていますが、喜んでもらえるので、しんどくはなく、楽しいです」と話していました。

また同商店街振興組合の小嶋理事長、近藤副理事長らは「毎年ながら、これだけ集まってく、感激しています。準備など大変ですが、今後もうつした催しを重ねることで皆さんに商店街へ足を運んで頂き、そのことを通じて地域の活性化にも貢献できれば」と話していました。なお「夜店」後編は八月下旬に地域との共催で取り組まれる予定です。

商店街に露店すらり

繁栄ワイワイ市場 さらに活気



→ 個性的な露店が二十数軒並んだ「繁栄ワイワイ市場」(写真は「名前シールづくり」に群がる来場者) 〓六月十三日朝 繁栄商店街で

楽しく個性豊かな露店がいっぱい。繁栄商店街(南市岡二丁目)に三月下旬オープンした「繁栄ワイワイ市場」がその後も回を重ね、出店数を増やし、活気を増しています。各地で活動する様々な分野の業者が一堂に会することで業者同士の交流と商店街・地域の活性化をめざす試み。毎月第一土曜が定例日ですが、六月十三日には同商店街恒例の「夜店まつり」(二二頁に記事)に合わせた特別イベントを開催。十〜十六時に、ネイルアート、唐揚げ、窯焼きピッツァ、沖縄物産、手作り小物、マッサージ、保険案内など、過去最多の二十五軒が並びました。

●「フレイムアート」似顔絵など注目

このうち子供向け芸術の体験コーナーを出していたのは高木奈緒子さん。布袋の内側にさし入れたモデル絵を外側から特殊なフレイムでなぞるとオリジナルの絵入りバッグが出来上がる「フレイムアート」や「デコパージュ」で注目を集めていました。高木さんは、普段は生涯学習インストラクターとして『MAMA'S HOUSE』(八幡屋二一四・一八、〇〇八〇・四七六七・〇一一、関西ハルーンアート協

「にこやかに会話しながら巧みに筆を動かす「似顔絵屋さん」(上)と、笑顔で対話しながら運勢を告げる「タロット占い」の女性(下)



会所属の屋号でハルーンアート教室や託児所を運営。この日は知人に勧められて初めて出店したとが。「ワイワイ市場は面白いイベントですね。反応を見ながら今後の参加も考えていきたいと思っています」と話していました。

イベントではこのほか、ベテラン男性画家が「にこやかに会話しながら巧みな筆づかいを見せる似顔絵屋さん」、美しく着飾った女性が笑顔で対話しながら運勢を告げる「タロット占い」などのコーナーに人だかりができていました。

「繁栄ワイワイ市場」は毎月第一土曜十〜十六時開催。〇八五八三・〇三六繁栄商店街。

四区バレー 港区勢健闘

弁天ク、MISAKI、波除小P

「区の垣根を越えてバレーボールを楽しむ、親睦と友情を深め、生涯スポーツを発展させよう」と八月十四日(日)、大阪市立西スポーツセンター(西区立売堀)で「四区親善バレーボール大会」が行なわれました。港・大正・西・此花の四区のバレーボール連盟の共催で二十七回目(ホスト役は回り持ちで、今年は西区連盟)。各区から三チーム、計十二チームが出場し、此花区のカントリークラブが優勝、同区のマリノスが準優勝、西区の西中OGBが三位。港区から出場の弁天クラブ、MISAKI、波除小PTAはいずれも予選で敗退しました。

●三チームとも決勝進出ならず

予選では八チームずつ二コートに分かれて各チームが一試合を戦い、港区チームも日頃の練習の成果を発揮して健闘しました。

このうちAコートの弁天クラブ(昨年連盟杯

優勝・市長杯優勝で出場権。三年連続)は西中学校(西区)に二対一で勝ちましたが、泉尾東小PTA(大正区)に二対一で敗戦。Bコートの波除小PTA(抽選で出場権)は西中OGB(西区)に二対一、此花フレンズ(此花区)に二対二で連敗。同じくBコートのMISAKI(昨年連盟杯準優勝で出場権)はノーリミット(大正区)に二対一、カントリークラブ(此花区)に二対二で連敗。いずれも決勝トーナメント進出はなりませんでした。

●親睦と切磋琢磨に意義あつた

応援に声を枯らした港区バレーボール連盟の数下俊文会長や浜口伊知江・田中喜美子・福井真田美の各副会長らは「四区全体では此花区をはじめとして年々水準が上がっているようです。親睦の中にも切磋琢磨して競技レベルを上げていくことがこの大会の目的。地域を越えて声を掛け合い、健闘を称え合う姿も爽やかで、マナーの向上も実感され、大変意義ある大会でした。来年は港区がホスト役となるので、三年前のような港区チームの活躍(優勝と準優勝)を期待しています」と話していました。

●みなとプロレス「地域元プロレス」

プロレスで地域を元気に!「青少年に正義感と勇気を」と活動する港区のプロレス団体「みなとプロレス」(代表:ミッキー隼野さん)の第五回興行。正義派(ミッキー隼野、シユニア目せ、HARU。など)と悪漢の対決をメインに三つ四試合。人気女性レスラーHARU。さんはアキレス腱断裂などで療養中。今回で引退を表明。八月十八日(日)十三時から港区民センター(弁天)一・一五で。入場料二千五百円(前売三千円)、各種福祉手帳所持者、小学生以下、六十五歳以上は無料。問合せはH・Evolution企画(☎080-3066-0639)へ。



→来場を呼びかけるミッキー隼野代表(上)と、今回で引退を表明しているHARU。さん(下)

舞さん^{しやまさん}里帰り演奏会

市岡中出身 仏仕込みサククス八月に



→ 外山舞さんの音楽活動の出発点となった市岡中音楽部。三年続けて全国大会出場を果たした(写真は〇四年初出場での金賞獲得の演奏)

港区育ち、パリ仕込みのサククスが響く。

市岡中出身の外山舞さんが、八月に神戸で、九月に東京で、演奏会を催すことになり、多くの区民から喜びと期待の声が上がっています。

市岡中音楽部で全国大会出場

舞さんは一九八九年港区市岡生まれ。二〇〇

四〜二〇〇六年の市岡中学校在学時には音楽部の一員としてクラリネットなど管楽器を担当。

高度な音楽性を持った、当時の南田賀顧問の指導のもと、吹奏楽コンクール全国大会に三年連続出場・金賞獲得という快挙を成し遂げ、同校の黄金時代を築きました。

進学した名門・明浄学院高校でも吹奏楽部員として活躍、またもや三年連続全国大会出場・金賞獲得を達成。部長となった三年生の演奏会では部員数十名の氏やとパート全てを空で紹介する離れ業をやつてのけ、部員や保護者を感激させたエピソードも残しています。

大阪音大からパリ国立音楽院へ

卒業後、大阪音楽大学短期大学部に入学し、校内コンクール管楽器部門で優勝するなど目覚ましい成績を収めて首席で卒業。二〇一〇に渡

「里帰り公演に意欲を燃やす外山舞さん



仏。パリ十三区モリス・ラヴェル音楽院を室内楽科ともに審査員満場一致称賛付きの一位で卒業。二〇一二年、パリ国立高等音楽院に入学。二〇一四年、同音楽院の室内楽科に同学院初の日本人のみで結成されたワズメサキソフォンカルテットで審査員満場一致の最優秀賞で修了。現在、同音楽院第一課程に在籍する傍ら、フオーネースブロー・アヴオン音楽院のサクソフオン講師を務めています。日仏音楽協会会員。

日仏で演奏活動

これまでにアンサンブル、カルテットなどのコンサートを日本やフランス各地で開催するなど積極的な演奏活動を展開。二〇一四年にはパ

りのアルメニアン教会でソロリサイタル。パリセルマー社でサクソフオン奏者の埴美里さん（はなみさと）ピアニストのマシュー・ローさんとトリオ・リサイタル。現代音楽アンサンブルガールの作曲家と音楽家のコラボレーションコンサートに出演。いずれも好評を博しました。公式ブログ <http://toyamainikkiris.blogspot.jp/>

♪ 仕送り断ち完全自立、大学院へ

多忙な中で久々の里帰りを控える外山舞さん。港区で不動産業と美容院を営む両親によると、五年目に入ったパリ暮らしでは、高い家賃や住宅税など年間四〜五百万円にのぼる生活費と苦闘しながら自活。今年に入ってから、両親からの仕送りの断ち、完全自立。そんな中でさらに音楽性を深めるため、九月からはパリ国立高等音楽院の大学院課程への進学を予定しているという。

♪ 八月二十日に神戸へ

里帰りの演奏会は「回あり、いずれも『パリの屋根裏部屋』と題して催されます。

その一回目は八月二十日（日）十九時半〜二

←神戸演奏会で共演するサクソフオニスト・埴美里さん（上）とピアニスト・西岡沙樹さん（下）



十一時に神戸市中央区加納町四・三・二「近藤ビル」九階TEL〇七八・三九一・八〇八一、FAX〇七八・三九一・八〇八一、<http://piau-julien.com>で。参加

費 千五百円。共演は、高度な技術と煌びやかな音色、独創的な音楽性で注目を集める茨城県出身のサクソフオニスト・埴美里さんと、二〇一三年第十九回鳥栖ピアノコンクールフル部門優勝など数々の受賞歴を誇る奈良県出身のピアニスト・西岡沙樹さん。演奏曲目は、①フアリヤ・ス・ヘイン舞曲②J・S・バッハ：無伴奏チェロ組曲より③④・ケクラン：練習曲より④F・デュリユー：ユーバージット⑤「ゴーベル・ギリシヤ風」ティベルティスマン⑥「アルベニス」ス・ス・ヘイン組曲より一ほか。

♪ 九月八日に東京で

演奏会の二回目は九月八日（日）十六時から

東京都渋谷区道玄坂一・一五・九のアクタスノカアンホールTEL〇三・五四五八・一五二二で。入場料三千円（学生半円）。共演は、埴美里さん（前出）と、数々の受賞歴や名門楽団との共演歴を持つピアニスト・島田彩乃さん（あやの）。演奏曲目は、①F・デュリユー：ユーバージット②P・ヒンデミット：サクソフオンのためのソナタ③J・イベル：間奏曲④P・ゴーベル：ギリシヤ風ティベルティスマン⑤G・フォーレ：ピアノトリオ第二番⑥A・ピアソラ：ブエノスアイレスの冬、春一ほか。

より良い 余生のために 自叙伝を!

400字（原稿用紙1枚）で
千円が標準料金です。

芸術の世界でそれなりに実績を積み、環境保護など社会貢献もしてきたと自負していましたが、一度これまでを振り返り、今後の跳躍台にしたいと冊子化を依頼しました。他人に聴いてもらうことで新たな発見もあり、それ自体が貴重な体験でした。（60代女性）

お話をききとり、冊子
にしてお渡しします。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

戦争政治に警鐘

アンネ没後七十年 歌と朗読で松浦由美子さん



→戦争政治に警鐘を鳴らした『茶色の朝』(右は『マナーマナー』を歌う松浦由美子さん、左は『アンネの日記』を朗読する柏原圭子さん)

ある朝、気づいたら、ほかの色は許されなくなっていた。市岡在住のシャンソン歌手・松浦由美子さんが六月二十一日、兵庫県立芸術文化センター(西宮市)で「歌と朗読による『茶色の朝』とアンネの夜」と題して公演。第二次大戦後七十年、アンネ・フランク没後七十年の世で進む戦争政治に警鐘を鳴りました。イラク戦争勃発時に「平和のために何かできないか」と考えた松浦さんが〇四年から続けている「ガットネロ実験劇場」の十二回目。

♪ ファシズム受け入れる国民

第一部『茶色の朝』と戒厳令の夜』では、フランスの作家フランク・パヴロフが九八年に発表し、極右政党が進出した〇二年大統領選後に爆発的な売れ行きを見せたという、反ファシズム寓話の名作『茶色の朝』を、松浦さんが朗読。ナチスを象徴する『茶色』以外の毛の犬や猫を飼ってはならないという「ペット特別措置法」が作られ、世の中が茶色一色になっていく様子を通して、知らず知らずファシズムを受け入れていく国民の姿を、メリハリを利かせた落ち着いた発声で表現し、かつての軍国日本や戦後GHQ

の言論統制、「安保法制」といった名の戦争法が準備される現代日本を鋭く風刺しました。

♪ 絶妙のタンゴアンサンブル

このあとアルゼンチンタンゴユニット「SCOPACOPA」が、軍事クーデターを逃れた人々の故郷へのノスタルジーを謳ったピアソラの『タンゴディア』や、戦争の不安の中で晴れ渡った空を描写したリクスナーの『碧空』、映画にも登場するゲーゼの超人気曲『シエリシー』などを演奏。ピアノ・バイオリン・コントラバス・バンドネオンの絶妙のアンサンブルが、高揚、緊迫、情熱、悲憤、哀愁、寂寞、幻想、絶望、希望など様々な曲想を自在に表現し、松浦さんが発した危機感との見事な呼応を見せました。

♪ 聖歌で永遠平和を願う

第二部では、ピアノリスト宮崎剛さんのピアノ演奏と指揮で、七人の女性から成るCEVオーカルアンサンブルが、『グレゴリオ聖歌』『アーミング・グレース』などを合唱。神への賛美や感謝を通じて「今の平和が永遠に続くように」「宮崎さんとの願いが、透明感・高揚感・幸福感に溢れた美しい歌声に乗り、聖堂を彷彿させ

る高天井の空間一杯に響き渡りました。

♪ アンネの日記を朗読

第三部『アンネの日記』では、朗読劇団あめんぼ座の柏原美子さんが、ナチスに虐殺された少女が綴った『アンネの日記』から抵抗「希望」などの章を朗読。その間を縫って松浦さんが、死を覚悟したポーランドのバルチザンの心情を表現した『今夜は帰れない』や、第二次大戦下の面陣宮から歌声が流れたという『リリー・マールレーン』などを、綾部美和子さんのピアノ伴奏で熱唱。明瞭で情感込めた柏原さんの朗読は、多感な少女の感傷や正義感を臨場感豊かに表現し、柔らかく温かく深みのある松浦さんのアルトは、戦場を厭う庶民の素朴な心情を劇的に歌い上げて心揺さぶるものがありました。

♪ 背景に『アンネの窓』

三部の背景には、画家・北畠和夫さんが窓越しのプタナスを淡い色彩で描いた『アンネの窓』を掲示。息詰まる蟄居生活の中、平和で幸福な未来を希求するアンネの心が象徴的に表現され、無言のうちに、歌や朗読や演奏と響き合っているように感じました。

←聖歌で永遠平和を願った宮崎剛さん指揮のCETヴォーカルアンサンブル①と絶妙のアンサンブルで魅了したシンコパのタンゴ演奏②



また、ロビーでは西宮市の聖イエファ会「アンネのバラの教会」所蔵の写真ハネルなどが展示され、休憩時間などに関心を集めていました。

♪ 「警服受け止めたい」と参加男性

終演後、港区から来た六十代男性は「難しい舞台を予想していましたが、分かりやすく、感動しました。特に戦争はいつも文化統制から始まるのがよく分かりました。現状への不満と失望から、安倍氏や橋下氏に代表されるアメリカ

力追従の独裁的な戦争政治が一定の共感を生んでいる今の日本にあって、国民の無関心が戦争や全体主義につながるというパブロフさんの警告をしっかりと受け止めたいと思います」。

♪ 「心に響いた」と参加女性

同じく港区から来た六十代女性は「三部構成のどのパートも素晴らしく、どれも一つだけでも値打ちがあると思いました。シンコパさんのタンゴ演奏はまるで一つの生き物のようで、流れるような、質の高い演奏が心に響きました。柏原さんの朗読は、まるでアンネが実際に語りかけているようで、最後の『生きながらえたら世の中の役に立つ仕事をしたい』という希望の言葉に思わず目頭が熱くなりました。松浦さんの歌唱には情熱と迫力があり、『絶対に戦争を許してはならない』という強い意志が伝わってきました」と話していました。

なお、松浦由美子さんは社会派シャンソン歌手として『平和』『環境』『人権』などのテーマを掲げ、天王寺区の音楽喫茶「ガットネロ」を拠点に各地で演奏活動を展開しています。「みなと力ルチャー」(四十頁)にガットネロの催し案内。

ライブガイド

● **八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん** きりたかつじ

日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。周りを元気づける灯台のよつなミュージシャンに」と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガール」の十六枚目のアルバム『**解識**』(翼の記憶「厭離穢土」涙の価値)など十一曲が好評発売中。三、四〇円。

● **〇三・三三・八一・九一八〇ファーストセル** ファーンジ

八月七日(金)十八時半から大阪FANJ(中央区西心斎橋一・一八・一〇 ホテルライオンズロックスビル、地下鉄四つ橋駅⑤出口から徒歩三分)六四八四・三三八〇で開催の「ガール」と他バンド「**KEE**」との合同ライブ キール **「singularity」**に出演予定。



→ 桐田勝治さん(上)とペドロさん(下)

● **三先のフォーク歌手、ペドロさん** 切断フラザ

ーズのリーダーやソロで温かな雰囲気のアリジナルフォーク▽毎月第一・三木曜 二十時サ・セラ(中央区西心斎橋、六六二二・六四三七)▽毎月第二火曜 二十時半ロージー(中央区西心斎橋、六六二二・三九九九)▽毎月第三火曜 二十時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町、六〇九〇・五八八・七〇二五)。

● **市岡元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」**

生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルゲリータとトマトパスタ』『あなたらしくあたらしく』好評▽HPは「花☆キャラ」で検索可、本紙HPからリンク。



→ 花☆キャラの演奏風景

演劇ガイド

● **弁天町ORC200生涯学習センター「夏休みでもOH!笑い塾」** オーク 「喜劇はチームワークとコミュニケーションやで」舞台の上で思い切りはじけよう!」と大阪出身の放送作家・砂川一茂さん(すながわかずしげ)が喜劇の基本やコツをやさしく楽しく三日間でコーチ。話すのが苦手な子も、声の小さい子も、友だちができない子も、夏休みがユーワな子も、面白いタレントをめざす子も、誰でも大歓迎。演目はお楽しみ。稽古日は①八月十五日(土)②十六日(日)③二十一日(土)。①②は十一時、③は十時〜十四時十五時に三発表会。参加費五百円。先着二十五名。対象は小学生以上だが家族・知人など大人の参加も歓迎。六五七七・一四一〇。



→ 大好評だった昨夏の「いどもOH!笑い塾」最終日の発表劇『幽霊食堂』の舞台から

盲導犬チャリティ来てね!

藤かほりさん「昨年の分も頑張る」



→九月に開催予定の「盲導犬チャリティショー」。
昨年は事故で中止となったが今年は準備万端
節目の二十回を飾るⅡ写真は一昨年の模様

「目の不自由な人たちに盲導犬を!」と波除
在住の演歌歌手・藤かほりさんが九月に港区民
センターで「盲導犬チャリティショー」を開催
することになり、事故による昨年の中止を残念
がっていたファンや関係者を喜ばせています。

藤さんは昨年八月、自転車で移動中、靴の紐
がペダルに巻きついて転倒し、左大腿骨を骨折
手術後のリハビリに時間を要することから、関
係者とも相談の上、九月に予定していた「盲導
犬チャリティ」は中止としました。

同年八月に藤さんから本紙読者へ届いたメッ
セージには「不注意から本意なこととなり、
申し訳ない気持ちで一杯です。これまでの支
援を無駄にせず、目の不自由な人たちに一頭で
も多くの盲導犬を贈るため、また皆様と笑顔で
再会できることを楽しみに、リハビリに専念し
ています」(要旨)とありました。

●一頭目の寄贈へ節目の二十回

そうして雌伏(しゅうふく)一年。万全の準備で迎える今年
の「盲導犬チャリティショー」は二十回の節目。
盲導犬一頭の養成には三百万円かかることとされ
ていますが、一回ごとに収益から三十万円を視覚

「目の不自由な人達に盲導犬を贈るため、今年
は頑張ります!」と意欲満々の藤かほりさん



障害者施設に寄贈して、十回目には一頭分を達
成。以後、「一頭目」を「気持ち新たに重ねてき
たチャリティが、再び結果の時を迎えます。」

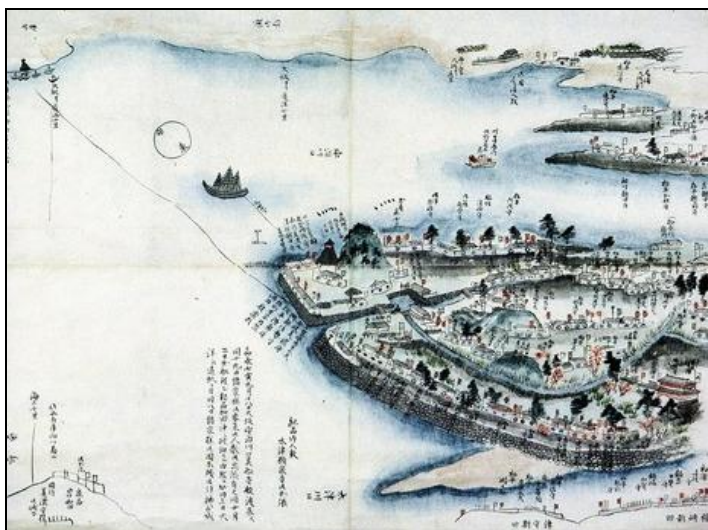
開催は九月十七日(日)十三時から港区民セ
ンターで。入場料 千円。演目は例年通り、『男
の夢十二代』『人生荒野』など艶も情も迫力も
ある「がほり節」をたっぷり。加えて、人気漫
才師・正司敏江さん、港区の演歌歌手・杉俊一
さん、北海道の歌手・川村正幸さん、「港区の天
童よしみ」と天井(てんせい)よそみさんら、藤さんの志
を応援する多彩なゲストが舞台を飾ります。

☎六五八一・二四二 藤止画。

みつちやんの

港区なるほど歴史ガイド

●…ロシアの黒船騒動 その二



→警備の様子を描いた『天保山諸家警備之図』
しよかけいびのず

前回あらずじ 西欧諸国がアジア侵略を進める中、一八五四年九月十八日、プチャーチン率いるロシア軍艦フィアナ号が「アメリカに後れを取るな」と通商を求めて来航。大砲六十二門を備えた威容に、市中は大騒ぎとなった。

官民挙げ大防衛ライン

大騒動の末、やっと下田へ回航

さて、いよいよフィアナ号が天保山沖に停泊するや、大坂城代（大坂城主の留守を守る役職・十屋寅直は、与力（同心）を指揮する役職や同心（庶務・警察などに当たった下級役人）を中心に、東西の奉行所（役所）から四百人の精鋭をすべて目印山（天保山）の番所（交通の要所に設けられた役人詰所）の警備を命じ、大小の廻船（商船）や荷船で安治川と木津川の河口をふさぐと共に、天満与力・太田資五郎を市岡新田（現在の市岡元町付近）の会所（取引所）に派遣して、外国船への備えを命じました。

◆言葉通じずジェスチャーで

一方のフィアナ号は、投錨と同時に「隻の

バッテリー（ボート）を降ろし、一千人余の船員が分乗して、安治川の浅瀬を探りながら、波除山（天保山の北東二・一キロにあった）の北岸に着船しました。沿岸を固めていた東町奉行配下の同心や手先同心の下働きが取り囲みましたが、日本語はもちろん、同行させた通塾生のオランダ語も通じず。ロシア側の一人が書状を突き付けて「上の者に伝えてくれ」と要求したのですが、受理せず、身振り手真似（ジェスチャー）で帰船を促しました。そして、そのなりゆきをすぐ寅直に報告しました。

◆うかつに返事できず指示を待つ

翌十九日朝、東西奉行所与力らの一行が船でロシア艦に赴き、やはり身振り手真似で「大坂は外交の地ではないから長崎へ帰ってほしい」と求めました。が、先方はなかなか承知せず、一行はひとまず天保山の陣屋（役人の詰所）へ引き揚げ、寅直を中心に、両町奉行らが協議しました。が、プチャーチンの要求するところ（何かさっぱり分からないため迂闊な返事は与えられず、「ともかく幕府の指令を待つ」と確認する他ありませんでした。

◆ 官民・海陸あげて一大防衛ライン

そして幕府の指示を待つ一方、大坂城代と町奉行は、大坂にあるいくつもの藩の屋敷や周辺の大名に命じて兵を出させ、大坂湾沿岸の各所に配置させることにしました。

まず中心となる天保山には真直を軸に京橋口定番(定番＝城の警備に一定期間携わる役職)、玉造口定番、鉄砲方・坂本鉉之助をはじめ六十一藩の兵士を配置。また池田新田(今の三先あたり)には三藩・尻無川の南岸と木津川口の南岸には紀州藩兵千八百人、北岸には郡山藩兵八百人、その南には一藩、安治川口の北辺には四藩、合わせて二万四千五百人を陸上に配置しました。さらに海上には、伝法川と尻無川の河河口に各二十艘、木津川口に四十二艘の番船(自張りの船を浮かべ、西は尼ヶ崎・兵庫から明石・姫路まで、南は和川から堺・岸和田・紀州領に至るまで)、正に官民・海陸あげての一大防衛ラインを築いたのでした。

◆ 町民大騒ぎ、黒船見物も

さて、噂に聞いていたロシアの黒船が実際にやってくるにふた加え、いつしか役所側の大騒

動にも触発されて、大坂町民の驚きはひと通りではありませんでした。家業に就く者はほとんどおらず、大勢の役人や兵が大砲や鉄砲を担いで慌だだしく行き交う姿を茫然として見送りながら、「どうなるんや」と騒ぐばかり。奉行所は何度も「急御触れ」を出して、人心を落ち着かせようしました。そんな中で、特に地元・天保山付近の住民は、家族を大和や河内方面へ避難させる者が多かったと伝えられています。

その反面、物珍しさから、「どんなかな」と河口や天保山へ「黒船見物」に押し寄せる人たちも見られました。が、いずれも途中で役人に「アカン、帰るんや」と止められ、応じない者は捕えられたということです。またこの騒動は大坂だけに留まらず、その緊迫した空気を淀川を遡って京都にも伝わり、朝廷では七社・七寺に命じて国安を祈らせだといっていました。

◆ 幕府の指示で下田へ回らせろ

さて、大坂城代・土屋重直の伺書に対して幕府からの指令は、二十八日と二十九日の二度に分けて到着しました。最初は「大坂は外人を応接する地ではない。だから長崎または下田へ

回航すべきであることを説明し、その上で、市中の人心を落ち着かせなさい」というもの。二度目は「外国奉行の筒井・川路の両名を下田へ派遣したから、早く下田へ回航させなさい」とはっきり指示するものでした。

そこで十月一日、東西奉行所の与力がロシア艦に、ロシア語に翻訳した幕府からの書状を渡したところ、ようやく先方もこれを承諾し、翌三日午前九時、錨を抜き、紀州沖に向かってその帆影を消しました。こうしてロシア艦は去りましたが、この滞泊十五日間に亘って大坂の両町奉行所が、本来の用以外に使った船だけで五千一百一十二艘、そのため雇った加子水夫・水手への賃銀は百五十七貫百六十五匁と記されていますから、警備費一切を計上したら恐らく莫大な経費を要したことになるでしょう。

ところで下田へ回ったティファナ号は、同年十一月四日の大地震による津波が下田を襲った際に大破、修理のため戸田へ回航中に沈没してしまいました。これが日本初の本格的洋式帆船「ヘタウ」建造につながっていきます。(つづく)

〈小西典 港区田中在住の郷土史研究家〉

みなと

人生

劇

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがつづる『正地ドラマ』。第八弾は、田中住の九十代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしん」。

こううんばし そら

幸運橋の空 (九)

(前編まで) 港区のデパートに通つ大東久美子は次男の勧めで回想録を残すことになった。久美子は一九二二年、浪速区に生まれた。父・弥太郎は腕の良いベルト職人だったが、女遊びで博打に目がなく、解雇を機に転居を繰り返して、賭場に入り浸った。母は工場の賄いなどで子供を守り、六人兄弟姉妹の長女である久美子は学校を犠牲に子守奉公や置屋奉公で母を助けた。引越した先の港区で母は露店の昆布売り、十歳の久美子は学校を完全に離れて港新地の元芸者宅で三年間の子守奉公へ。やがて母は間借

り先の親戚の仕打ちに我慢できず飛び出た。したが、久美子の女主人は同情して住居と商売資金を提供。母は幸運橋市場で昆布売りの店を始めることができた。一方、腕を買われて上海へ出張したものの梅毒を患って帰国した父は久美子に奉公を辞めるよう勧めたが、久美子は「そんなことでけへん」ときかなかった。

● 三年間の奉公終え家族と合流

そうして久美子が奉公期間をまだ一年ほど残していた頃、奉公先の女主人は、朝潮橋の中古の二階建てを使って「朝潮館」という旅館を開業することになり、一階を八畳ずつの四部屋に仕切り、一階の二部屋と合わせて五部屋で営業を始めた。ところが仲居を雇っても仕事ができなかったので辛抱できず、三日と持たなかった。が、久美子は子守り(女主人の子供はその時三歳くらいになっていた)の合間に便所を掃除し、廊下を拭き、各部屋を片付け、買い物も済ませ、とにかくよく動いて仲居たちの穴を埋めた。

そんな久美子が三年と一カ月、この一カ月は久美子の感謝の気持ちからの余分の期間だった。の奉公を終えて辞めた時(ちょうど至る台風



の直後だった、奉公先の主人は久美子の家まで来て、「働く者がおらんから、どうか続けて来てほしい」と頭を下げた。が、母は「うちも店が忙しいから、どうしてもこの子が必要です。申し訳ありません」と重きに断った。

こうして久美子はようやく家族と合流することができたのである。ときに昭和九(一九二四)年秋。十三歳になっていた。この年、一番下の弟・昭九郎が生まれた。また最初の借家(奉公先の女主人の好意の前貸し金で借りたもの)が狭くなり、安治川に近い田中元町二丁目の少し広い借家へ引越したのも、この頃だった。

● けつこつ繁盛した海産物販売

さて、幸運橋市場で海産物を扱う久美子たちの商売は、けつこつ繁盛した。家族で働くので人件費がいらず、その分、品物を安く売ること

ができた。鮭、鱈、ちりめんじゃこ、すめめ
鳥賊、味噌干し、丸干しなどが飛ぶように売れ
た。それまで見向きもしなかった父の妹（つまり
久美子の叔母）のタツがお金を借りに来るほど
で、そのうち、そのタツの子・貞夫が久美子たち
の仕事を見習いで手伝うようになった。

● またもや父の博打好きが…

ところが病み上がりの父は、朝の中央市場へ
の買い出しには行へものの、昼からは暇なもの
だから、またもや博打に嵌るようになった。店
の売上を預けていた市場近くの鹿島銀行から、
久美子らが知らない間に金を引き出したりした。
またそのころ借りていた田中元町二丁目の家の
一階に賭博仲間を上げ、「警察が来たらゆつてく
れよ」と久美子を下で見張らせたりもした。久
美子はそれが嫌でたまらず、巡査の姿も見えな
いのにお父ちゃん、巡査が来たぞ、と叫び、
皆を大慌てで退散させたものだった。

● 世話焼きでもあった父

一方で父は相変わらず、他人には過剰なほど
に世話を焼いた。例えば、知り合いの湯浅とい
う魚屋が築港で間借りしていた店を追われ

た時、父は「可哀想になあ」と同情し、久美子
らが商売していた場所の中で、水道に近い、一
番いい場所を気前よく貸してやった。また一人
の子持ちだったその湯浅のために、近所の酒屋
が持っていた二十軒長屋の一軒を自分が保証
人になって借りてやり、湯浅が「お金も何もお
ませんね」と体を小さくすると、「よっしゃよ
っしゃ」と水屋や筆哥など何から何まで揃えて
やりもした。その湯浅がその後、毎年の盆暮れ
には鯛や鰯を、特に久美子や妹には大きな
羽子板を贈ってくれるなど、あとあとまで感謝
を示したのは、当然といえば当然だった。



ともあれ一家の生業と暮つしは何とが軌道に
乗り、以後、久美子は母と共にその中心的働き
手として十二歳から二十一歳までの少女期と青
春期を過ごすこととなった。この間の確か久美
子十八歳の時、父が一時、築港三條通にあつ
た大野病院に胃潰瘍で入院し、母が付き添いで
泊り込んだので、久美子とすべ下の弟の善道の
二人で店を切り盛りしたことがあった。

● 急速に戦火が拡大

一方、時代は「支那事変」と呼ばれた日中戦
争昭和十二年七月開戦から「大東亜戦争」と
呼ばれた太平洋戦争（昭和十八年十二月開戦）へ
と急速に戦火が拡大、久美子たちの生活も当然
ながらその渦中へと巻き込まれていった。政府
は「国民精神総動員運動」を決定（昭和十二年、
「挙国一致」「尽忠報国」「堅忍持久」を三大
スローガンに、町会・隣組を通じて国民生活の
隅々まで軍事色を行き渡らせた。港区でも大阪
港は中国大陸などへの一大出征基地となり、福
崎には大きな高射砲陣地、築港の住友倉庫の屋
上にも高射砲が据えられたことが久美子らの耳
に入った。

（つづく）

平和のため

戦争体験

語り継ごう

おがわ ひろし

小川 宏さん(八〇) 井天在住 ②



前記あらすじ 昭和十年、港区西市岡の酒屋の長男に生まれた私は、中国での戦火拡大の中でも、活気ある長屋で恵まれた幼少期を送った。が、同十六年十一月に米国や英国と太平洋戦争が始まり、子供心に大人たちの興奮を感じた。

国民学校から集団疎開

家恋しく、辛かった食料不足

◆ 国民学校で「鬼畜米英」

そうして開戦時の「大勝利」のあと日本軍が東南アジアや中部太平洋に向けて進撃を続けていた昭和十七(一九四二)年四月、私は吉妻国民学校に入学しました。それまで小学校は「尋常小学校」と呼ばれていたのですが、戦争に向けて子供たちにも「国民」としての意識を植え付けるためでしょう、前年の春から「国民学校」と呼ばれるようになったのです。

授業ではひらがなより先にカタカナを教わりました。また敵国への憎しみを煽るため「鬼畜米英」という言葉がしきりに使われ、ある授業では米国大統領ルーズベルトや英国首相チャーチルの絵を描かされたこともありましたが、その絵をどう扱ったかまでは覚えていませんが。

◆ 奉安殿と教育勅語

毎朝の朝礼では上級生のラッパと「頭の中」の号令で国旗掲揚が行なわれました。ま

た講堂には、天皇・皇后陛下の御真影(ごしんえい)を保管して鉄の扉で閉じた「奉安殿(ほうあんでん)」という小さな建物があり、その前を通る時には必ずお辞儀するよう言われました。

入学式や卒業式、始業式や終業式などの式典にはいつも教育勅語(ちよくち) (日本の教育の基本方針を示した明治天皇の言葉) が校長や教頭から厳かな調子で読み上げられ、最後に「御名・御璽(ごめい・ごし) (天皇の印のこと)」という言葉が出る、ホッとしたのを覚えていま。

◆ 防空壕と金属回収

そのうち日本軍の形勢はどんどん悪くなり(といっても、大人にも子供にも真相が知られることはありませんでしたが)、国民生活も次第に緊迫したものになっていきました。

その一つが、米軍の空襲に備えて国の呼びかけで取り組まれた防空壕(ぼうくわう)づくりでした。我が家の地下と裏にもそれぞれ五人と十人ほどが避難できる穴が掘られ、前の鉄平所には二十人くらいも入れる大きな壕が造られました。

また、市岡パラダイスの名物だった飛行塔がいつの間にか姿を消してしまいました。が、これ

は恐らく軍隊で不足する金属を民間から賄うため昭和十八（一九四三年）八月に「金属類回収令」が強化されたためだったと思われま

◆ 集団疎開の予行演習で浜寺へ

やがて戦争開始から二年半ほどが過ぎた昭和十九（一九四四年）八月には、米軍の空襲から子供たちを守るためということで、大都市の学童の集団疎開が決まり、それを受けて小学三年生だった私たちは、その年の夏、その予行演習でいっしょで、堺市浜寺の松林の中の民家で二泊三日の集団生活を送りました。これには学校付きの将校が付いて来て、生活を指導したり訓練したりしましたが、当の私たちはまだのんびりしたもので、街中では見られない白砂青松の風景に見惚れたり、密相の皮を燻した煙で蚊を退治して喜んだりしていました。

◆ 高松市のお寺へ集団疎開

そして九月にはいよいよ本番の集団疎開が実行に移されました。港区の児童の行き先は四国が多かったようですが、学校として学年として学級として、さらに細かく分かれ、私たちの学級の男女二十人は香川県高松市のお寺と淡

←空襲に備えて始まった集団疎開。上は出発する児童、下は疎開先・高松のお寺で遊ぶ子供



まりました。朝九時に大阪駅を出発し、岡山県の宇野から宇高連絡船で瀬戸内海を高松へ渡りローカル線「琴電」に揺られて岡本駅に着いたのは夕方でした。その近くの川岡村という村にある教團寺というお寺が私たちの宿舎でした。お寺の周囲には小川や田んぼ、それに雨の少ない四国に特有の溜め池などがあり、そんな豊かな自然の中をみんなで走り回るなどして、ともかく最初の二日間、私たちは元気でしたが、それを過ぎると急に家が恋しくなり、元気がなくなりました。特に夜、教室ほどの広さの本堂に敷いた布団に入り、消灯すると、まず女の子がしゅしゅ泣き出すのが聞こえ、それにつら

れて男の子までが、もう泣きしていました。

◆ 四六時中ひもじい思い

朝は七時ごろ起床。三度の食事前には「天地一切の恵みに感謝して、いただきます」と手を合わせてから、木製の椀や箸を手にしました。最初の食事ではおかずに鰯の塩焼きが出たのですが、周りの子らがそれを骨ごとバリバリ食べるのを見て、先にも言ったように、けつこう甘やかされ育ち、牛肉や高級魚しか食べていなかった私は大きなショックを受け、「こんなところから腹食を共にするのか」と、この先の集団生活の厳しさを覚悟したものでした。そんな中で何より辛かったのは、おなか一杯食べられないことでした。食料不足の折、毎日の食事は量が少なく、育ち盛りの私たちは四六時中ひもじい思いをしていました。それでも私のように家から小遣いを持っていくことができた子は、近くの薬屋で栄養剤「ワカモト」甘くてけつこうおいしかったを買ってポリポリ食べたり、近くの農家で生卵を買い受け、その殻に釘で穴を開けて口身をちゅうちゅう吸ったりしました。

文化的イベント案内

みなとカルチャー

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「Meet the Classic Vol. 31 壮大・華麗・真夏に轟く圧倒的オーケストラ・サウンド」

同楽団の首席指揮者 藤岡幸夫さんとクラシック＆オーケストラのライブ感を伝える人気シリーズの三十一回目。第一部は「華麗なるオープニング」と題して、アンダーソン作曲『舞踏会の美女』を、次いで「いま、最も注目を集めている若手作曲家・菅野祐悟の世界!」と題



→ 指揮とお話を担当する関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者・藤岡幸夫さん © SHI NYAMAGISHI

← 箏独奏を担当する遠藤千晶さん © TSUNEO MORONAGA ①と尺八独奏の藤原道山さん © miwanoriaki ②



して、菅野祐悟さん作曲『永遠の土』(世界初演)と、同『箏と尺八と管弦楽のための協奏曲』(Review)を演奏(関西初演)。箏独奏はこの協奏曲の初演者の一人、遠藤千晶さん、尺八独奏は、尺八の新たな魅力を切り開く若き第一人者、藤原道山さん。第一部は「生誕百五十年記念・シベリウスの劇的シンフォニー!」と題して、シベリウス作曲『交響曲第一番 木短調作品39』を演奏。八月十一日(火)十九時からいずみホール(JR環状線「大阪城公園駅」歩三分、JR環状線・東西線「京橋駅」南口歩八分、地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪」シネスパーク駅歩五分)で。一階席四千元、二階席三千元、学生席

一千円(十八歳以下、一階席のみ)。全席指定・消費税込。無料託児サービスあり(先着 二十名 申し込み締め切り七月十八日)。 ☎ 八五七七・三三八一。

● 弁天町ORC200生涯学習センター・弁天

シネマ倶楽部『黄昏』 「心に残る名作映画を

低料金で多くの市民に」と旧・弁天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第七回、通算第四十回。「シカ」に働き

に出た田舎娘キャリアーは、すべさま悪い男にだまされ、同棲を始める。彼女の勤める高級レストランの支配人ハーストウッドは素朴な彼女に惹かれていくが、その裏には妻との冷え切った仲があった。キャリアーとの結婚を考え、離婚話



→ 弁天シネマ倶楽部『黄昏』から

を持ちかけるハーストウッドはまるで相手にされず、遂に店の金を盗んでギャリーとNYへ駆け落ちした。が、幸福も束の間、私立探偵の追及が襲つゝ。監督はウィリアム・ワイラー。出演はローレンス・オリヴィエ、ジェニファー・ジョーンズ、ミリアム・ホプキンス、エディ・アルバート他。一九五二年、アメリカ、モノクロ、一二分。七月二十五日(土)十時と十四時から講堂で。料金は一人二回八百円(前売五百円)。定員は各回先着百名。☎八五七七・二四一〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」

旧・弁天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第十



→ 弁天町ORC200生涯学習センター「オー

ク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家笑

福亭學光さん①と講師・旭堂南麟さん②

←「第二四七回オーク弁天寄席」に出演する桂わかばさん①と林家染八さん②



五回、通算第四七回。七月五日(水)十九時〜二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭

堂南麟さん(大阪出身の講師、旭堂南陵門下)をレギュラーに、今回は桂わかばさん(兵庫

県西宮市出身、桂米朝一門、桂ざぶろの弟子)、

林家染八さん(大阪市出身、林家染丸一門、林

家小染の弟子)も。先着二百名。当口五百円、

前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センター

が主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ太

阪が協力。☎八五七七・二四一〇。

● 港図書館

①図書展示「こどものほんだな」展Ⅱ七月三十一日(金)まで開催中。物語や知識の本から絵本まで、子供向けの本を展示。大人

も楽しめる。展示本を紹介した冊子『こどもの

ほんだな一〇一五』配布も②図書展示「受賞図

書」展Ⅱ八月一日(土)から。昨年に各種の文学

賞をとった図書を一堂に③夏のこども会Ⅱ七月

十八日(土)十時半〜十一時半に港区民センター

一階橋で。親子連れ向けに「港子ども劇場」が

新作ペープサートやパネルシアターの実演、大

型絵本の読み聞かせなど。申込不要。先着四十

名④夏休み工作教室「エコクラフト・テーパー

マ・カップのおぼけ」Ⅱ七月二十九日(水)十時

〜十一時半に港区民センター一階松竹で。小

学校一〜四年生が対象。申込は来館または電話

で受付中。定員十五名(先着順)⑤おたのしみ会

Ⅱ毎週水曜日の十五時半〜十八時にじゅつたん

コーナーで。幼児と保護者を対象に絵本の読み

聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。

申込不要⑥あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第

一金曜日(八月は七日)の十一時〜十二時半にじ

ゅつたんコーナーで。赤ちゃんを保護者を対象

に、赤ちゃんが絵本に親しめるようプログラム

を工夫。毎週の「おたのしみ会」より赤ちゃん向

け。申込不要⑦かみしばいのじかんⅡ毎月第一

土曜日(八月は一日)の十五時半〜十八時にいゅ
うたん「ナーで。」せんの風」による紙芝居▽
公六五七六・三三四六。

●シネ・ヌーヴォ『若尾文子映画祭 青春』溝

●健一、小津安二郎、市川崑、川島雄三、吉村
公三郎、増村保造、巨匠に愛されて珠玉の名作
を残し、本格女優として今なお幅広い人気を誇る
若尾文子の出演作品から注目作を選んで九月

四日(金)まで特集上映中。七月十五日以降の上

映作品は『からつ風野郎』『雁』『赤い天使』

『十代の性典』『死の街を脱れて』『やつちゃ



→戦場に残された女性たちの決死の逃避行が胸
を打つ『死の街を脱れて』⑤と、困われ女の
叶わぬ恋を情緒豊かに描いた文芸作『雁』①

場の女』『刺青』『華岡青洲の妻』『不倫』

『妻は告白する』『永すぎた春』『赤線地帯』

『安珍と清姫』『処女が見た』『祇園囃子』『最

高殊勲夫人』『朱鷺』『偽大学生』『越前竹

人形』『爛』『初春狸御殿』『婚期』『女系

家族』『ぼんち』『清作の妻』『新源氏物語』

『浮草』『雪の喪章』『しとやかな獣』『雁の

寺』『女の勲章』『女の小箱』より夫が見た』

『温泉女医』『夜の素顔』『妻一人』『薔薇い

くたび』『夜の嵐』『瘋癲老人日記』『氾濫』

『幻の馬』『舞妓物語』『砂糖菓子壊れると

き』『心の月』『東京おにぎり娘』『家庭の

事情』『閉店時間』『不信のとき』『滝の白糸』

『帯をこく夏子』『濡れた人』『花実のない

森』『女は抵抗する』『女経』『美貌に罪あり

』『妻の日の愛のかたみに』。当日一般千四

百円。上映スケジュールなど詳細は同館(西区九

条一・二〇・一四、地下鉄中央線九条駅⑥出口

歩三分、阪神なんば線九条駅②出口歩三分、公

六五八・一四二六へ。

●ガットネロ市岡在住の社会派シャンソン歌

手・松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。「シャンソ
ン百物語」「クラシックカフェ」など毎月多彩
な企画▽HAMORI・BEEのつた★カフェII
“いろ・色彩”でつづる日本の歌をテーマ
に若手テノールデュオ(中川公志&小原有貴)
が日本の懐かしい歌を贈るシリーズの二十四回
目。ピアノは古谷優子(七月)と福本由美(八月)。
七月十八日(木)十五時、十七日(金)十五時、十
九日、八月十日(木)十五時、二十一日(金)十
一時、十五時の全八回(各六十分、休憩なし)。
各回 千五百円(フンドリンク付、要予約▽詳
細はガットネロ(天主寺区上本町八・一・三七、
地下鉄谷町九丁自駅⑨出口、公六六七・七〇〇
二二〇へ。
●ねじやらしのシャンテ☆カフェ懐かしい



歌に老いも若きも声を合わせる月例イベント。

毎月第四日曜十四時から港近隣センター（八幡屋一・四・二〇）で。不定期にゲストを迎え、リクエスト中心に約二時間。新オリジナル歌集頒布中。参加費千円（税込）。十月は変則で十一日に済み（八月は二十九日）。問合せは、ねじやらし音楽事務所（并天四・一・一・一・三〇）

☎六五八・六八八、<http://necojyaraai.jimdo.com/>又は

「ぬずりのはの会」（☎六五七・一・六八四）まで。

● 関西フィルとよもに歩む会「十七周年記念コンサート」 并天町を拠点に活動する関西フィルハーモニー管弦楽団を応援する市民グループ



→ 過去の「シャランテ☆カフェ」（五月）と昨年の

「関西フィルとともに歩む会総会&演奏会

による総会を兼ねたコンサート。十分間はどの

総会の後、同楽団のパーカッション奏者である中山直音さんと細江真弓さんと、友情出演の角武さんが登場。『情熱大陸』『風になりたい』などの演奏や打楽器紹介を楽しむ。七月二十日（月）祝十四時からオークホール（并天町オーク二番街西館八階）で。高校生以上千八百円、中学生以下五百円。乳幼児参加不可。要電話予約。☎六五七四・七七五六以下。

● ギャラリー&カフェ「風庵 近江の麻く良質な麻を身近に」展 人類最古の繊維である麻は

丈夫で吸水発散性にも優れていることから夏の繊維とも呼ばれる。琵琶湖の風土を生かした



→ 風庵で開催の「近江の麻く良質な麻を身近に

」展の展示品から小物入れとバッグ類①

近江（滋賀県）の麻で作ったタオル、ハンカチ、バッグ、コースター、うちわ、アクセサリーなどの麻製品が今年も届いた。手仕事で仕立てられた小物や雑貨も。七月三十日（木）まで好評展示中。「風庵」は南市岡二・一・一・一〇（繁栄商店街内）、☎四九六五・五九八、十時～十八時開館（日曜定休）。

読者プレゼント

※いずれもハガキに当日の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「ミート・ザ・クラシック31」（みなとカルチャー）招待券をペア一組に。

● 并天町ORC200生涯学習センター「オーク并天寄席」（みなとカルチャー）招待券をペア一組に。

● 并天町ORC200生涯学習センター・并天シネマ倶楽部『黄昏』（みなとカルチャー）招待券をペア一組に。

● みなとプロレス「地域近江プロレス」（フボーツガイド）招待券をペア二組に。

ひとくちPR

(二行)税込二〇〇〇円、写真は別料金相談

● **そろばん学習で子どもが変わる！** 右脳活性化直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友綜合教室 **検定** 夕凧 一・二・三・七 三津神社西側 **☎**六五七一・一六八七七。

● **放課後・春夏冬休みは学童保育へ** 入所児童募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇二三四(西原)か**☎**六五七一・一六八四三あおぞら学童。
● **石炭倉庫のレッスン** 吉津たかし先生の所作レッスン、志保先生の歌唱レッスン、あんがにおまろの朗読教室、河野明夫の三味線を習おう。一回 千円。波除六・五・一八、**☎**六五八一・〇六八四、FAX六五八一・二六七〇。



→石炭倉庫の吉津たかし先生(上)と志保先生(下)

● **介護のことばお任せ** ①老いの相談②手続き代行③デイサービスは送迎付で入浴・食食・カラオケなど④訪問介護は買物・掃除・洗濯・通院などサポート。NPOみなと合同ケアセンター

(南市岡二・六・二六、**☎**六五八三・四八八〇)。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛(敷)ふとん一万円。ふとん館ひらのや(南市岡二・二・一八、繁栄商店街東入口フリーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。

● **おしゃれ着いつぱい** 神戸メーカー直送、お出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミント (八幡屋一・四・一八、入舟公園前、大阪信金横十、十八時営業、日月定休)。

● **新しい作業所でお仕事しませんか** 障害者手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。就労支援B型作業所相談支援事業所わたぼうし(夕凧一・一八・一〇、**☎**六五七六・〇一〇三)。

● **磯路ヒアノ教室** 大きい人も小さい人も楽しくレッスン。**☎**六五七四・一三四三東條和恵

● **ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小！

中・高生も楽しく練習。月会費八千円(無期限十枚綴り券八千円)。入会金一万円を月々半額。練習日は月・水・金の十九時半〜二十一時半。港本ワシングジムは三先一・二三・九。

● **囲碁クラブ** 毎月第一・四土曜の午後二〜五時に港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)会議室で。参加費一回五百円。家族的雰囲気。**☎**九〇・二二九八・八四四三瀬戸。

● **何でも書きます、まとめます** 宣伝・司会などの文案。自分史・社史などの聞き書き。新聞・会報などの取材・編集。ホームページ製作・記帳代行。**☎**六五七一・四六三六飯田編集事務所。

ひとくち伝言板

● **不幸続き猫に愛を** 捨てられ傷つき病み汚れたオス猫。治療去勢・しつけ済み。最期まで世話できる方。**☎**〇九〇・五八九八・一九四五セツ。

